

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 学校法人 専修大学                      2 大学名 専修大学

3 研究組織名 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

4 プロジェクト所在地 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

5 研究プロジェクト名 アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
原田 博夫	経済学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 21 名

9 該当審査区分 理工・情報      生物・医歯      人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
原田 博夫	経済学部・教授	ソーシャル・リスクマネジメント研究	研究代表: 財政制度分析
嶋根 克己	人間科学部・教授	ソーシャル・キャピタル研究	研究推進責任者: 葬送分析
金井 雅之	人間科学部・教授	ソーシャル・キャピタル研究	事務局長: 社会調査分析
神原 理	商学部・教授	経済・ビジネス研究	経済・ビジネス研究: チーフ ソーシャル・ビジネス分析
大橋 英夫	経済学部・教授	経済・ビジネス研究	中国・アジア経済分析
鈴木 奈穂美	経済学部・准教授	経済・ビジネス研究	NPO 活動分析
大矢根 淳	人間科学部・教授	ソーシャル・リスクマネジメント研究	ソーシャル・リスクマネジメント 研究: チーフ 防災社会学分析
小池 隆生	経済学部・准教授	ソーシャル・リスクマネジメント研究	雇用・社会政策分析
徐 一睿	経済学部・准教授	ソーシャル・リスクマネジメント研究	中国調査における連携・ 調整担当
飯沼 健子	経済学部・教授	ソーシャル・キャピタル研究	ソーシャル・キャピタル研究: チーフ ジェンダー分析
村上 俊介	経済学部・教授	ソーシャル・キャピタル研究	市民社会分析
稲田 十一	経済学部・教授	ソーシャル・キャピタル研究	国際援助分析
(共同研究機関等)			

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

小林 盾	成蹊大学教授	ソーシャル・キャピタル研究	社会調査分析
ホメリヒ カローラ	北海道大学准教授	ソーシャル・キャピタル研究	社会調査分析
丸茂 雄一	専修大学兼任講師	ソーシャル・リスクマネジメント研究	集团的防衛法制分析
鷲見 英司	新潟大学准教授	ソーシャル・キャピタル研究	アンケート調査の地域経済分析
中村 虎彰	明治大学大学院 兼任教員	ソーシャル・リスクマネジメント研究	研究コンソーシアム
林 玄鎮	The Academy of Korean Studies Chairman	日韓政治経済研究	研究コンソーシアム
ダン グエン アイン	ベトナム社会科学院 副院長	アジアの移民・雇用・労働研究	研究コンソーシアム
チャン クアン ミン	ベトナム社会科学院 東北アジア研究所・ 所長	東北アジアの政治・経済研究	研究コンソーシアム
スリチャイ ワンゲーオ	タイ チュラロンコン大学 平和紛争研究所・ 所長	アジアの農村社会研究	研究コンソーシアム

### <研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

#### ■研究者の追加

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	成蹊大学文学部現代社会学科・教授	小林 盾	社会調査分析

(変更の時期:平成 29 年 7 月 1 日)

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	北海道大学大学院文学研究科・准教授	ホメリヒ カローラ	社会調査分析

(変更の時期:平成 30 年 8 月 1 日)

## 11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

### (1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

#### 【研究プロジェクトの目的・意義】

本研究プロジェクトの目的は、(1) 東アジアおよび東南アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイングの現状と規定要因を、調査票(アンケート)「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」によって明らかにするとともに、(2) この地域の大学・研究機関からなる国際的な研究コンソーシアムを構築し、将来にわたって協働的に研究するためのプラットフォームを形成することである。

ウェルビーイング(幸福)あるいは生活の質は、アリストテレス以来の社会科学における中心的なテーマのひとつである。ウェルビーイングは、単に個人個人の社会経済的地位にのみ関係するものではなく、家族や近所づきあいなどの社会関係、政治制度や宗教などの社会体制によっても影響される。したがって、この研究プロジェクトでは、単なる個人的なウェルビーイングではなく、社会的なウェルビーイングを対象にするため、経済学や社会学などの社会諸科学の学際的なアプローチによって、理論と実証の両面からその姿を明らかにする。

東アジアおよび東南アジアは、このテーマを研究する際に重要な地域である。第1に、この地域は経済力、政治体制、民族、文化、宗教などにおいてきわめて多様である。第2に、この地域は近代化に歩み出す時期が遅かったため、21世紀初頭の現在でも、伝統的な生活スタイル・価値観を色濃く残している。第3に、この地域は、20世紀中葉以降急速な経済発展・都市化を遂げ、経済のグローバル化の牽引役でもある。第4に、さらにはこの地域では、少子高齢化という先進国共通の課題が、すでに現実のもの

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

のになりつつある。にもかかわらず、従来のソーシャル・ウェルビーイング研究の大半は、主に欧米での知見を基に進められてきた。

したがって、東アジアおよび東南アジアを対象にソーシャル・ウェルビーイング研究を進めることは、普遍性と個別性を識別・抽出するという意味で学術的にユニークであるだけでなく、この成果を各国・地域やグローバル社会に提示できれば、各種政策面での貢献も大きい。

#### 【計画の概要】

本研究プロジェクトは以下の4つの領域で、進めるものとする。(1) 東アジアおよび東南アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイングの現状と規定要因を、調査票(アンケート)「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」によって明らかにする。調査対象国・地域は7つ(日本・韓国・台湾・ベトナム・タイ・フィリピン・インドネシア)に及ぶ。(2) これらのアンケート調査から得られた知見を基に、シンポジウム(日本国内での開催)およびコンファレンス(海外)を開催し、研究成果を研究者や学生、政府関係者や一般に向けて広く公開する。平成28年度以降は、毎年2回以上のペースで開催する。

(3) 英文論集 *The Senshu Social Well-being Review* を毎年1回刊行し、ソーシャル・ウェルビーイングに関する最先端の研究成果を、世界の専門研究者に発信する。この論集は、専修大学学術機関リポジトリ(SI-Box)でもオンライン公開されているので、世界中の人が無償で閲覧できる。(4) 和文論集『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』も毎年1回刊行する。こちらは、主に日本の大学生・大学院生と一般の人々に向けて、ソーシャル・ウェルビーイングをどのように理解し活用すればいいのかについて、わかりやすく伝えることを目的としている。この和文論集も無償でオンライン公開される。

## (2) 研究組織

研究代表・原田博夫(経済学部教授)、研究推進責任者・嶋根克己(人間科学部教授)、事務局長・金井雅之(人間科学部教授)の下、「経済・ビジネス研究(チーフ・神原理<商学部教授>)」「ソーシャル・リスク・マネジメント(チーフ・大矢根淳<人間科学部教授>)」「ソーシャル・キャピタル研究(チーフ・飯沼健子<経済学部教授>)」の3つの緩やかなグループを構築しつつも、研究会や現地調査ではグループ横断的に取り組んでいる。本学専任教員である研究員は、経済学部・商学部・人間科学部の3つの学部から分野横断的に構成されており、ソーシャル・ウェルビーイングという学際的なテーマに対応できる陣容になっている。また、客員研究員として国内外の研究機関からさまざまな分野の研究者を順次迎えており、組織間連携や国際的な研究発信に寄与している。PD及びRAについては、平成26年度はPD1名・RA1名、平成27年度以降はPD1名の体制で、データの整理や分析等の研究業務に取り組んでいる。いずれも本学大学院の出身者であり、うち1名は本研究プロジェクトでの雇用期間中に博士学位を取得し、国際学会での報告や論文執筆を重ねるなど、若手研究者の育成という趣旨に合致した成果をあげている。研究支援体制については、社会知性開発研究センター事務課による手厚い支援により、海外研究機関との調査委託契約の取り交わしなどの煩雑な業務をスムーズに遂行できている。

海外の研究機関・研究者との提携は、本研究プロジェクトスタート時は3カ国(韓国・ベトナム・タイ)4名であったが、平成30年度には、8カ国63名の研究コンソーシアムメンバーが参加する組織となった。アジア8カ国の共同研究機関組織は、韓国・ソウル国立大学アジア研究所社会科学資料院、台湾・中央研究院(アカデミア・シニカ)人文社会科学研究所、ベトナム・ベトナム社会科学院社会学研究所、タイ・チュラロンコン大学社会調査研究所、フィリピン・アテネオ・デ・マニラ大学社会科学部/社会学・人類学科、インドネシア・インドネシア大学社会政治科学部/社会学研究室、モンゴル・独立モンゴル研究所である。また日本国内では情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設/社会データ構造化センターとの間で覚書を取り交わし共同研究の体制を構築した。

## (3) 研究施設・設備等

研究施設の面積及び使用人数	使用者数 21名
社会知性開発研究センター事務課(生田校舎3号館1階)	面積 93 m <sup>2</sup>
社会知性開発研究センター2(生田校舎3号館1階)	面積 24 m <sup>2</sup>

## (4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

### <優れた成果が上がった点>

本研究プロジェクト全体での、主要な活動実績は、以下の4点に集約できる。

#### 1. ソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築

本研究プロジェクト発足時点で提携関係のあった研究機関・研究者は3ヶ国(韓国・ベトナム・タイ)だった。これらの3カ国・研究機関とは、本研究プロジェクトの前身である文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築：東アジアのコミュニティ、

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

セキュリティ、市民文化の観点から」(平成 21 年度～平成 25 年度、研究代表・原田博夫経済学部教授)における現地調査の実施などで協働した実績があった。

本研究プロジェクトのスタート後、これら 3 研究機関・研究者からの紹介なども含めた各種ネットワークを通じて、3 カ国以外の国・地域と順次、交渉・交流を進めた結果、最終的に、アジア 7 国・地域の大学・研究機関、および日本国内では、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設/社会データ構造化センターとの間での多面的な提携・協力関係、すなわち「ソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアム」を構築することができた。これによって、本研究プロジェクトが当初想定していた、最終かつ最大の目標を達成できたものとする。

以下は、その具体的な展開である。

## 2. 「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査 (SoWSA)」の実施

平成 26 年度後半、調査票 (アンケート) 「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」の項目・内容を固め、平成 27 年 2 月に日本で、ウェブ調査を実施した。これが、その後の海外でのアンケート調査の雛型となった。以降、平成 27 年度韓国、ベトナム、平成 28 年度は、タイ、フィリピン、平成 29 年度インドネシア、台湾で調査を実施した。各国の調査については報告論文として本研究プロジェクトの論集に掲載されている。また、当初「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」という名称で実施したこの国際比較調査の匿名化処理済個票データとして、「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査」**Social Well-Being Survey in Asia (SoWSA)**という統一名称で、平成 31 年 4 月以降は、協定校である韓国・ソウル国立大学アジア研究所社会科学資料院のデータアーカイブにおいて、一般公開される予定である。

## 3. 国際コンファレンス、シンポジウムの開催

平成 26 年度は、先行研究プロジェクト (文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、平成 21 年度～25 年度) である社会関係資本 (ソーシャル・キャピタル) 研究センターでの研究成果を踏まえて、本テーマに関する海外の先行研究者 1 名 (フリードリッヒ・シュナイダー教授<リンツ大学>) を招いてのシンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」(専修大学神田校舎、平成 26 年 12 月 6 日) **\*1** をおこない、幅広の意見交換を図った。

平成 27 年度は、国内の先行研究者 2 名 (小塩隆士・一橋大学教授、白石小百合・横浜市立大学教授) を招いてのシンポジウム「『幸福』をつくる政策」(専修大学神田校舎、平成 27 年 11 月 28 日) (後援: 日本経済研究センター、星槎大学) **\*2** をおこない、本研究プロジェクトの特色を確認した。さらに、海外での調査結果も確認するためのプロジェクトセミナー (平成 28 年 2 月 17 日～19 日) を専修大学富士山中湖セミナーハウスでおこない、海外からの参加者とのソーシャル・ウェルビーイングに関する情報交換を通じて、国際的な研究者同士のネットワークの輪が広がり、研究コンソーシアムのプラットフォームの基礎が形成された。

平成 28 年度は、プロジェクトセミナーに引き続くシンポジウム「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング: アンケート調査を踏まえて」(専修大学サテライトキャンパス、平成 28 年 6 月 25 日) **\*3** を開催し、国際的な研究コンソーシアムの形成が確実なものとなった。こうした準備段階を経て、**第 1 回国際コンファレンス “Social Well-being and Sustainable Development Goals in Asia”** (タイ・チュラロンコン大学、平成 29 年 3 月 9 日・10 日) (後援: アジア開発銀行研究所、日本経済研究センター) **\*4** を、本研究プロジェクトとしては初の海外 (タイ) での開催にこぎつけた。

平成 29 年度は、2 度の国際コンファレンスを実施した。**第 2 回国際コンファレンス**は“**Social Well-being in the Context of Regional Integration: Searching for a Joint ASEAN Model**” (ベトナム社会科学院、平成 29 年 10 月 12 日・13 日) (後援: アジア開発銀行研究所、日本経済研究センター、城南信用金庫) **\*5**にて開催した。**第 3 回国際コンファレンス**は“**Social Well-being, Social Policy and Social Transformation**” (インドネシア・マグララン Plataran Heritage Convention Center、平成 30 年 3 月 4 日～6 日) (後援: アジア開発銀行研究所、日本経済研究センター、城南信用金庫) **\*6**にて開催した。なお、このコンファレンスは、「日本・インドネシア国交樹立 60 周年記念事業」にも認定された。

平成 30 年度も、2 度の国際コンファレンスを開催した。**第 4 回国際コンファレンス**は“**Social Well-Being in the Asian Context: From a Comparative Perspective**” (韓国・ソウル国立大学アジア研究所、平成 30 年 6 月 29 日・30 日) (後援: 日本経済研究センター、城南信用金庫) **\*7**にて開催した。**第 5 回国際コンファレンス**は“**Balancing the Outcomes of Globalization: Roles of Social Well-Being**” (専修大学生田校舎、平成 30 年 11 月 23 日・24 日) (後援: アジア太平洋社会学会、日本経済研究センター、星槎大学、城南信用金庫) **\*8**を開催した。さらに、この第 5 回国際コンファレンスの最終日 (専修大学神田校舎、平成 30 年 11 月 25 日) には、公開シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 **\*9** を開催した。このシンポジウムは、これまでの研究成果を日本国内に広

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

く社会発信する観点から実施された。ここでは、二人の基調講演者大竹文雄・大阪大学大学院経済学研究科教授、細田満和子星槎大学副学長／教授に加えて、アジア 8 か国・地域のコンソーシアムメンバーも交えたパネル・ディスカッションで充実した議論が展開された。

#### 4. 論集の刊行

論集(英文、和文)の発刊に関しては、初年度から二つの論集を継続発行している。英文論集 *The Senshu Social Well-being Review* (No.1, March 2015 \*10; No.2, March 2016 \*11; No.3, September 2016 \*12; No.4, December 2017 \*13; No.5, December 2018 \*14) と和文論集『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』(No.1, 2015年3月 \*15; No.2, 2016年3月 \*16; No.3, 2017年3月 \*17; No.4, 2018年3月 \*18; No.5, 2019年3月 \*19) の形で、毎年度発表している。両論集とも、本研究プロジェクトの研究成果・活動状況を取りまとめて外部に情報発信するだけでなく、ソーシャル・ウェルビーイング研究に関連した外部(とりわけ海外)からの投稿を認めており、英文論集 *The Senshu Social Well-being Review* と和文論集『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』では、外部からの投稿を積極的に進める観点から、平成 28 年度後半の時点で、投稿規定を明確にして(英文論集については American Sociological Association の Style Guide 第 5 版(2014)に準拠、和文論集については日本社会学会の社会学評論スタイルガイド第 2 版(2009)に準拠)、両論集がソーシャル・ウェルビーイング研究の国際的・学術的なプラットフォームとなることを目指している。

こうした論集(とりわけ英文論集 *The Senshu Social Well-being Review*)の透明性・公開性・国際性の方針は国際的・学界にも広く受け入れられ、改定後の査読システムの下での原著論文は、No.4 で 5 本、No.5 で 8 本に上っている。この論集(英文論集)は平成 31 年度以降も、本研究コンソーシアムのプラットフォームになることがコンソーシアムメンバー間で合意されており、本研究プロジェクトとしても、その継続には鋭意、協力・努力する予定である。

この他に、本研究プロジェクト・メンバーがそれぞれに国際学会での発表や、国際雑誌への投稿・掲載などで実績を上げており、その詳細は、「1 3. 研究発表の状況」に記載されている。

#### <課題となった点>

本研究センター・コンソーシアムにとってのいわばプラットフォームである社会(アンケート)調査「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」(最終的には、「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査(SoWSA)」と名称を統一)は、平成 26 年度末から平成 29 年度にかけて、アジア 7 か国・地域で実施した。スタート時点では、日本での平成 27 年 2 月実施の質問票を英語版(標準版)とし、以後、順次、それぞれの現地語に翻訳して実施した。つまり、本来的には同一の質問項目・スタイルだったにもかかわらず、同じウェブ調査だった日本・韓国・台湾でも、標準版(英語)から各現地語への翻訳の過程で、各国版に微妙な差異のあったことが判明している。さらには、訪問調査で実施した他の東南アジア諸国(ベトナム、タイ、フィリピン、インドネシア)では、その調査手法でも無視できない相違点が生じていた。

こうした差異を調整・埋めるためには、事前に十分・慎重な準備が必要なことを改めて認識した。今後、このような社会(アンケート)調査を実施する際には、大いに留意する必要があると考えている。

#### <自己評価の実施結果と対応状況>

本研究プロジェクトは、専修大学内では、社会知性開発研究センター(センター長は学長)内の一拠点と位置付けられていて、その活動は年間を通して、社会知性開発研究センター運営委員会で報告・チェックされている。社会知性開発研究センター運営委員会には、年度初めには事業計画書を、年度末には事業報告書、自己点検評価報告書を提示している。年度中にも、6~7回の委員会が開催されて、その都度の事業活動を報告している。

さらに、この社会知性開発研究センターの活動自体も、全学的な自己点検評価委員会で、報告・チェックを受けている。

大学基準協会の評価(平成 26 年度)では、この社会知性開発研究センターの活動は、「長所として特記すべき事項」として評価されている。

#### <外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

平成 29 年 2 月に実施した外部(第三者)評価では、3名の評価者のいずれからも総合所見 A(目標を大きく上回っている)をいただいた。特に、国際比較調査(アンケート)が着実に進んでいること、その結果として、海外の大学・研究機関とのコンソーシアムが形成されつつあることなどが、高く評価された。国際学会での積極的な発表なども評価されている。今後に向けての留意点として、国際比較調査

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

終了後の、国際的な共同発表や分析結果の国際雑誌での発表の増強が課題として指摘された。

国際比較調査の分析は、国際会議での発表機会の増加など、着実に成果を上げている。国際学術雑誌への投稿・掲載の実績の一例として、2018年に嶋根研究員の論文が *Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences* に掲載された。\*20 また、本研究プロジェクトでは平成 31 年度以降も、継続的に英文論集 *The Senshu Social Well-being Review* (査読誌) を発刊して、海外を含めたコンソーシアムメンバーへのプラットフォームを維持することにした。この英文論集の発刊の継続は、ソーシャル・ウェルビーイングというテーマ・切り口が学術的・社会的に意味のあるものと認知してもらうためには、必要不可欠な基盤だと考えるからである。

平成 31 年 3 月に実施した外部 (第三者) 評価においても 3 名の評価者より総合所見 A をいただいた。今後に向けてのコメントとして、平成 27 年から平成 29 年にかけてアジア 7 カ国で実施した国際比較調査を、一回限りとするのではなく、5 年ないし 10 年後に大規模な国際比較調査を実施して、いわば定点観測のような成果に取り組むべきとの激励もいただいた。そのためには、アジアを対象にする方法論上の基礎固めをして、大規模資金にチャレンジする必要性を改めて確認した。

### <研究期間終了後の展望>

本研究プロジェクトの成果は大別して 4 つある。第 1 は、アジア 8 カ国・地域でのソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムが構築できたこと。第 2 は、「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査 (SoWSA)」を実施できたこと。この実施時点では社会 (アンケート) 調査「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」と呼んでいたが、平成 31 年度以降のデータ公開に向けて、本研究プロジェクトの趣旨をより明快かつ端的に表現するものとして名称を変更・統一することにした。第 3 は、国際コンファレンス (海外)、シンポジウム (国内) を毎年数回ずつ開催して、アカデミックな認識・交流を深めると同時に、広く一般に公開することができたこと。第 4 は、論集 (英文・和文) の発行である。これらは相当な成果であると考え、なお、少なからずの課題も残している。今後は、こうした成果と課題を踏まえながら、新たなステージへのレベルアップを図りたい。具体的には、以下の通りである。

第 1 と第 3 に関しては、研究コンソーシアムでは、各国がそれぞれ持ち回りで、コンファレンスおよびフィールドワークの開催が可能である旨を申し出があり、平成 31 年度以降も各国での開催は可能な情勢である。ただ、資金面でのハードルはあるので、何とかそれらを克服したいと考えている。第 2 に関しては、まずは、本研究プロジェクトで実施した「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査 (SoWSA)」データは、できるだけ早期に公開し、学会の知的財産としてプラットフォームとしたい。そのためにも、まだ、データ・クリーニング作業の済んでいない国 (ベトナム、フィリピン、タイ、インドネシア) に関しては、順次、作業を終えている国 (日本、韓国、台湾) の経験とマンパワーを提示しながら、整備していきたい。次いで、この「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査 (SoWSA)」の一段のレベルアップを図るためには、そもそも調査・設計・分析において、量的・質的な両面からの同時的なアプローチが必要であると考え。こうした作業は、いわば、将来、本格的な国際比較調査をアジア各国で実施するために必要な準備ともいえる。第 4 に関しては、和文論集は本研究プロジェクトの期限とともに終了するが、英文論集 *The Senshu Social Well-being Review* (査読誌) は、本研究プロジェクトによる国際共同研究の成果でもあり、貴重な知的財産でもある。専修大学での平成 31 年度以降の学内研究プロジェクトとしての用途はついたもので、ソーシャル・ウェルビーイング研究の国際的なプラットフォームを維持していきたい。

### <今後期待される研究成果>

これまでに確立された研究コンソーシアムは、アジア各国間での研究者の交流を深め、幅広いものにしていく。さらには、欧米を含んだ世界的な国際会議の場でも、こうしたネットワークは重要な要素になっており、将来に向けて継続・強化させる意思を本研究プロジェクトも持つ必要がある。具体的には、現時点では、2 つの見通しを持っている。

第 1 は、共通プラットフォームとして実施した社会調査「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査 (SoWSA)」データは、公開の前段階としてのデータ・クリーニング作業を、日本・韓国・台湾のコンソーシアムメンバー有志で、平成 29 年秋以降進めてきた。この作業は、専修大学と情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 (ROIS-DS) / 社会データ構造化センター、韓国・ソウル国立大学アジア研究所、台湾・中央研究院で進められ、3 ヶ国データに関しては、平成 31 年 4 月以降、公開が可能な見通しである。残りの 4 ヶ国データに関しても、令和 2 年初頭 (2020 年 1 月) までには完了させる予定である。なお、このデータ公開に関しては、ソウル国立大学アジア研究所からの申し出により、同機関内の社会科学資料院 (Korea Social Science Data Archive; KOSSDA) で公開される見通しである。ここを通じて、全世界の研究者向けに、二次分析用に一般公開されることになる。

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

第2は、Springer社から、ソーシャル・ウェルビーイング特集(2巻本)の刊行(2020年)を計画している。内容としては、第1巻は、Social Well-being, Development, and Multiple Modernities in Asiaで、編者は、Jaeyeol Yee (Seoul National University)、原田博夫(専修大学)、金井雅之(専修大学)の3名である。第2巻は、Diverse Mechanisms of Social Well-Being in Asia: Comparative Approachesで、編者は、金井雅之(専修大学)、小林盾(成蹊大学)、Jaeyeol Yee (Seoul National University)の3名である。ここに採択される論文の多くは、いずれも、本研究プロジェクトのこれまでのコンファレンスで発表・報告されたものをブラッシュアップしたものとなる予定である。もちろんその他にも、新たな知見からの書き下ろしも含まれる。こうした学術的な成果発表は、ソーシャル・ウェルビーイング研究の意義を国際的にも広く認知させる効果を持つと期待される。

### <研究成果の副次的効果>

研究コンソーシアムが形成され、海外の大学・研究機関との交流が深まった結果、ベトナム社会科学院(平成27年3月締結)、タイ・チュラロンコン大学(平成28年3月締結)およびソウル国立大学アジア研究所(平成30年3月締結)との間で、国際交流組織間協定を締結するに至った。これらの協定は、平成31年3月末で当初の締結期間が終了するが、いずれの機関も継続を希望しているので、平成31年度以降の継続手続きを進めている。

アジア各国・地域の持ち回り方式で開催されるコンファレンスとフィールドワークの結果、社会調査に携わる中堅・若手の研究者が育ってくれば、研究ネットワークが実現したひとつの姿といえよう。

さらには、このソーシャル・ウェルビーイングの視点は、経済発展から人口減少局面に入っているアジアで、政策的にも明示的に取り入れることの必然性あるいは可能性の学術的基盤をグローバルな観点からも提供できると考えている。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) ソーシャル・ウェルビーイング (2) ハピネス(幸福) (3) アジア  
 (4) ソーシャル・キャピタル(社会関係資本) (5) QOL(生活の質)  
 (6) BLI(ベター・ライフ・インデックス)  
 (7) コミュニティ(地域社会) (8) ワーク・ライフ・バランス

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

### <雑誌論文>

◎英語論文： 著者名、刊行年、タイトル、掲載誌名、巻(号)、該当ページ。

◎日本語論文： 著者名、刊行年、タイトル、『掲載誌名』機関名、巻(号)、該当ページ。

◎氏名の下線は当センター研究員および国内外コンソーシアムメンバーを示す。

- \*13 Anh, Dang Nguyen, 2017, "Social Well-Being in Vietnam: Designing and Preliminary Results from a Sampling Survey", *The Senshu Social Well-being Review* 4: 117-23.
- \*10 Harada, Hiroo, 2015, "The Great East Japan Earthquake and Fiscal Measures", *The Senshu Social Well-being Review* 1: 45-68. [査読有]
- \*10 Harada, Hiroo, 2015, "Raising Issues at the International Symposium 2014", *The Senshu Social Well-being Review* 1: 11-22. [査読有]
- \*11 Harada, Hiroo, 2016, "The Significance and Availability of Happiness Study", *The Senshu Social Well-being Review* 2: 9-39. [査読有]
- \*12 Harada, Hiroo, 2016, "Happiness in Japan: From the Viewpoint of Age, Sex and Relative Wealthiness", *The Senshu Social Well-being Review* 3: 1-17. [査読有]
- \*14 Harada, Hiroo and Eiji Sumi, 2018, "The Happiness and Relative Income Hypothesis in

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Contemporary Japan: A Study of Lifestyle and Values”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 63-74. [査読有]

7. Inuma, Takeko, 2015, “Civicness in Question: The Case of Women’s Activities in Rural Vietnam”, *The Monthly Bulletin of Social Science* 624: 19-37.
8. Inada, Juichi, 2015, “Social Safety Net (SSN) in Vietnam: Comparative Analysis of Two Villages in the North and South in Terms of Community-Based Social Safety Net and the Market Economy Wave”, *The Monthly Bulletin of Social Science* 624: 38-54.
9. \*10 Kambara, Satoshi, 2015, “Community Changes and Social Capital: Organizing Issues Based on Previous Studies”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 127-43. [査読有]
10. \*10 Kambara, Satoshi, 2015, “The Citizens’ Perception of Community in Kawasaki City Centered around Community Association Members: Result of Questionnaire Survey Conducted through Voluntary Organizations for Disaster Management”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 105-25. [査読有]
11. \*11 Kanai, Masayuki, 2016, “Contextual Effects of Bridging Social Capital on Subjective Well-being”, *The Senshu Social Well-being Review* 2: 41-50. [査読有]
12. \*13 Kim, Seokho and Jaeun Lim, 2017, “Patterns of Social Support Networks in Japan and Korea”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 3-19. [査読有]
13. \*14 Kobayashi, Jun and Dolgion Aldar, 2018, “Inequality of Well-being in Asia: Comparative Analysis of Happiness in Eight Countries”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 75-82. [査読有]
14. \*12 Koo, Hwaran, Jaeyeol Yee, Eun Young Nam, and Ee Sun Kim, 2016, “Dimensions of Social Well-being and Determinants in Korea: Personal, Relational, and Societal Aspects”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 37-58. [査読有]
15. \*13 Lelièvre, Eva, Sophie Le Coeur, Léonard Moulin, and Nicolas Robette, 2017, “Happiness, Health, and Well-Being in a Life Course Perspective: Quantitative Data Collection and Analysis of Sequences of Subjective Indicators”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 53-64. [査読有]
16. \*10 Marumo, Yuichi and Satoshi Kambara, 2015, “The Citizens' Perception of Community and Local Capabilities for Disaster Management in Kawasaki-shi: Result of Web-Based Questionnaire Analysis”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 69-104. [査読有]
17. \*11 Marumo, Yuichi, 2016, “Empirical Analysis of Community Bonding Social Capital—Impacts in Emergency and Normal Times in Japan—”, *The Senshu Social Well-being Review* 2: 51-83. [査読有]
18. \*12 Marumo, Yuichi, 2016, “Visualization of Cognitive Process about Income Gap in Japan: Model Constructions Using SEM and Mutual Relations among Respondents’ Attributes”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 19-36. [査読有]
19. \*13 Mueller, Georg P., 2017, “Gender Inequality under Different National Welfare Regimes: An Empirical Evaluation with Entropy Measures from Information Theory”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 39-51. [査読有]
20. \*10 Murakami, Shunsuke, 2015, “The Social Capital of Vietnamese People in Germany”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 159-86. [査読有]
21. \*10 Murakami, Shunsuke, 2015, “Introduction for discussion with Thai Colleagues Commentary on Social Capital in Thailand: Unraveling the Myths of Rural-Urban Divide”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 189-93. [査読有]
22. Ohashi, Hideo, 2015, “China’s External Economic Policy in Shifting Development Pattern”, *Public Policy Review* 11(1): 141-73. [査読有]
23. \*14 Osaki, Hiroko, 2018, “Does Trust Moderate the Effect of Relative Income on Happiness?,” *The*



法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Senshu Social Well-being Review* 5: 51-61. [査読有]
24. \*12 Oyane, Jun, 2016, “Community Reconstruction from Flooding in Quang Phuoc Commune, Central Vietnam”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 111-45. [査読有]
  25. \*10 Phuong, Dang Thi Viet, 2015, “Social Exchange and the Participation of Voluntary Associations in Lifecycle Events”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 145-55. [査読有]
  26. \*13 Porio, Emma and Justin See, 2017, “Social Well-Being in the Philippines: Indicators and Patterns”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 95-116.
  27. \*10 Schneider, Friedrich, 2015, “GDP, Well-being, Happiness and the Shadow Economy: Some Results for Japan”, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 23-42. [査読有]
  28. \*13 Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Timoti Tirta, and Pebriansyah, 2017, “Policies, Social Exclusion, and Social Wellbeing in Indonesia and Malaysia”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 21-35. [査読有]
  29. \*14 Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Muhammad Damm, and Kevin Nobel Kurniawan, 2018, “The Paradox of Relational Well-Being: A Comparative Study of South-East and East Asian Countries”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 83-91. [査読有]
  30. Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Rika Febriani, and Pebriansyah, 2018, “Social Policies, Social Exclusion, & Social Well-being in South East Asia: A Case Study of Papua, Indonesia”, *Economics and Sociology* 11(3): 147-60. [査読有]
  31. \*14 Shibai, Kiyohisa, 2018, “Behind the Shadow of Coming War: An Expeimental Test for Antiwar Sentiments”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 3-19. [査読有]
  32. Shimane, Katsumi, 2014, “Funeral Ceremony as an Embedded Social Capital”, *The Monthly Bulletin of Social Science* 613: 43-56.
  33. Shimane, Katsumi, 2018, “Các vấn đề về tang lễ hiện đại hóa: So sánh đối chiếu Việt Nam và Nhật Bản”, *Vietnam Review of Northeast Asian Studies* 3(205): 30-40. [査読有]
  34. \*20 Shimane, Katsumi, 2018, “Social bonds with the dead: how funerals transformed in the twentieth and twenty-first centuries”, *Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences* 373(1754): 1-7. [査読有]
  35. \*12 Sudjatmiko, Iwan Gardono, Indera Ratna Irawati Pattinasarany, Ganda Upaya, and Risa Wardatun Nihayah, 2016, “Social Well-being Research and Policy in Indonesia”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 75-92. [査読有]
  36. \*14 Sudjatmiko, Iwan Gardono, Lidya Triana Aly, Roy Ferdy Gunawan, Tiara Wahyuningtyas, and Rangga Ardan Rahim, 2018, “Social Well-being, Religion and Suicide: A Comparison of Japan and Korea with Thailand and Indonesia”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 93-103. [査読有]
  37. \*11 Sumi, Eiji, 2016, “Subjective Well-being and Income Inequality”, *The Senshu Social Well-being Review* 2: 85-98. [査読有]
  38. \*12 Suzuki, Naomi, 2016, “History and Forthcoming Challenges of Family Care Leave Related Systems in Japan”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 147-81. [査読有]
  39. \*14 Tsai, Ming-Chang, Yow-Suen Sen, Yi-fu Chen, Tsui-o Tai, Hsiu-Jen Yeh, and Chin-Hui Liao, 2018, “International Comparative Survey on Lifestyle and Values: A Report on the Taiwan Survey”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 105-16.
  40. \*13 Veenhoven, Ruut, 2017, “Happiness Research: Past and Future”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 65-73. [査読有]
  41. \*12 Wirutomo, Paulus, 2016, “Dealing with Brawls in Jakarta’s Slum Area: Pursuing Social

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Development through Social Engagement”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 93-109. [査読有]
42. \*14 Wirutomo, Paulus, Evelyn Suleeman, Daisy Indira Yasmine, and Riena J. Surayuda, 2018, “The Condition of Societal Well-Being: A Comparison between Indonesia and South Korea”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 37-49. [査読有]
43. \*14 Wirutomo, Paulus, Iwan Gardono Sudjatmiko, Francisia S.S.E. Seda, Lugina Setyawati, Evelyn Suleeman, Daisy Indira Yasmine, Yosef Hilarius Timu Pera, and Roy Ferdy Gunawan, 2018, “The Social Well-Being Survey in Indonesia”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 117-35.
44. \*10 Wun’gao, Surichai, Surangrut Jumnianpol, Sayamol Charoenratana, and Nithi Nuangiamnong, 2015, “Reply to Murakami’s Commentary on “Social Capital in Thailand: Unraveling the Myths of Rural-Urban Divide””, *The Senshu Social Well-being Review* 1: 195-97. [査読有]
45. \*13 Wun’gao, Surichai, Surangrut Jumnianpol, Nithi Nuangiamnong, Pinwadee Srisupan, and Montakarn Chimmamee, 2017, “Social Well-Being in Thailand 2016: Survey Report”, *The Senshu Social Well-being Review* 4: 75-93.
46. \*11 Yazaki, Keitaro, 2016, “Basic Descriptive Statistics of Japan Social Well-being Survey”, *The Senshu Social Well-being Review* 2: 99-109. [査読有]
47. \*14 Yazaki, Keitaro, 2018, “Sympathy or Tolerance? A Comparison between the Effects of Trusting Most People and Trusting Strangers in Asian Societies”, *The Senshu Social Well-being Review* 5: 21-36. [査読有]
48. \*12 Yee, Jaeveol, Hyun-Chin Lim, Eun Young Nam, Do-Kyun Kim, and Ee Sun Kim, 2016, “Survey Design and Descriptive Outcomes of Korean Survey”, *The Senshu Social Well-being Review* 3: 59-74. [査読有]
49. Yee, Jaeveol and Sang-Hee Park, 2017, “Theoretical Reconstruction of the Concept of Social Well-being”, *Health and Social Science* 44: 5-43. [査読有]
50. 大橋 英夫, 2016, 「日中両国の経済貿易結構与双边経済関係——基于全球價值鏈 (GVC) 視角的分析」, 『日本研究』 遼寧大学日本研究所 159: 1-11. [依頼論文]
51. 張 光雲, 2017, 「日本刑法中的法条競合」, 『師大・西部法治論壇』 (2): 47-60. [依頼論文]
52. 張 光雲 訳, 2018, 「危険社会中的過失犯論」, 『師大・西部法治論壇』 (3): 44-56. [依頼論文]
53. 傅 恒・張 光雲, 2015, 「論兼具『法条競合与想象競合色彩』的個案之处断原則」, 『西南民族大学学报』 2015(8): 106-11. [査読有]
54. 飯沼 健子, 2014, 「飯田・下伊那における地域規模と地域振興」, 『専修大学社会科学研究所月報』 611・612: 98-109.
55. 飯沼 健子, 2017, 「地域統合下のタイ・ラオス・ベトナム国境地域の連結性」, 『専修大学社会科学研究所月報』 642・643: 26-41.
56. \*19 飯沼 健子, 2019, 「拡大 ASEAN における格差是正——域内協力が隣国協力が——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 5: 67-87.
57. \*16 稲田 十一, 2016, 「ベトナムにおけるソーシャル・セーフティネット (SSN) — 『共同体の扶助制度』 と 『市場化の波』 の南北比較 —」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 2: 55-73. [査読有]
58. 大崎 裕子・坂野 達郎, 2016, 「道徳的信頼の形成における制度的公正と社会的平等の役割」, 『計画行政』 日本計画行政学会 39(2): 56-64. [査読有]
59. 大崎 裕子, 2017, 「ソーシャル・キャピタルは主観的ウェル・ビーイングにおける経済的豊かさの限界を補完するか: 満足と信頼の分析」, 『理論と方法』 数理社会学会 32(1): 35-48. [査読有]
60. 大崎 裕子, 2019, 「一般的信頼の形成に関する規範的制度化アプローチ: ミクロマクロ構造から見えるもの」, 『理論と方法』 数理社会学会 34(1): in press. [依頼論文]

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

61. 大橋 英夫, 2014, 「転換期の中国経済における『2つの罣』」, 『Erina report』 環日本海経済研究所 117: 41-44.
62. 大橋 英夫, 2014, 「発展方式の転換と対外経済政策(特集 中国：新指導部における経済政策を中心に)」, 『フィナンシャル・レビュー』 財務省財務総合政策研究所 119: 112-35. [査読有]
63. 大橋 英夫, 2016, 「新常态下の中国経済」, 『東亜』 霞山会 584: 10-18.
64. 大橋 英夫, 2016, 「TPPと中国の『一带一路』構想」, 『国際問題』 日本国際問題研究所 652: 29-39.
65. 大橋 英夫, 2016, 「中国の改革開放からみた自由貿易試験区」, 『アジア研ワールド・トレンド』 アジア経済研究所 249: 8-11.
66. 大橋 英夫, 2017, 「深刻な過剰設備 鉄鋼の非稼働率は3割 過剰解消のハードルは高い(中国ショック2017)」, 『週刊エコノミスト』 95(7): 26-27.
67. 大橋 英夫, 2017, 「米中経済関係の新たな焦点(特集 トランプ維新への疑問と現実)」, 『世界経済評論』 国際貿易投資研究所 61(2): 32-39.
68. 大橋 英夫, 2017, 「ON THE RECORD 米中経済関係のゆくえ(特集 トランプ政権のアジア経済戦略)」, 『東亜』 霞山会 600: 10-19.
69. 大橋 英夫, 2018, 「転換期・中国の経済運営と米中経済(特集 米中“新時代”のアジア)」, 『東亜』 霞山会 610: 30-38.
70. 大橋 英夫, 2018, 「301条発動に見る米国の不安」, 『週刊エコノミスト』 96(21): 30-31.
71. 大橋 英夫, 2018, 「中国型発展モデルの普遍性」, 『外交』 都市出版 50: 74-79.
72. 大橋 英夫, 2018, 「新たな段階を迎えた国有企業改革(中国経済の中長期展望：重要課題分析)」, 『日中経協ジャーナル』 日中経済協会 296: 6-9.
73. 大矢根 淳, 2014, 「地域レジリエンスの向上と事前復興」, 『労働の科学』 大原記念労働科学研究所 69(4): 206-09.
74. 大矢根 淳, 2014, 「書評 田中重好 高橋誠 イルファン・ジックリ著『大津波を生き抜く』(明石書店・2012年)」, 『地域社会学会年報』 26: 163-64.
75. 大矢根 淳, 2016, 「サステナブル(sustainable)な防災社会構築のための新基軸～コミュニティにおけるレジリエント(resilient)な取組事例をめぐって～」, 『専修大学社会科学研究所月報』 641: 3-13.
76. 大矢根 淳, 2017, 「被災地ローカル各紙統合スクラップ帳の意義と課題—復興ロジックの探索・再構築に向けて—」, 『法学研究』 慶應義塾大学法学研究会 90(1): 229-59.
77. 大矢根 淳, 2017, 「ベトナム中部村落における水害からの復興の履歴と枠組み」, 『専修人間科学論集』 7: 89-108.
78. 大矢根 淳, 2017, 「マルチステークホルダーの参画する防災まちづくりの物語創成」, 『労働の科学』 大原記念労働科学研究所 72(12): 4-7.
79. 小笠原 強・宮川 英一, 2016, 「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む(二)—中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊—」, 『専修史学』 61: 63, 80-120.
80. 小笠原 強・宮川 英一, 2017, 「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む(三)—中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊—」, 『専修史学』 63: 114-75.
81. 小笠原 強・宮川 英一, 2019, 「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む(四)—中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊—」, 『専修史学』 65: 104, 122-144.
82. \*15 金井 雅之, 2015, 「ソーシャル・ウェルビーイング研究の課題」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 1: 7-22. [査読有]
83. \*17 金井 雅之, 2017, 「日本・韓国・ベトナムにおける幸福度の比較—ソーシャル・ウェルビーイング研究の現場から(1)—」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 3: 53-67. [査読有]
84. 金井 雅之, 2017, 「過去との比較が主観的ウェルビーイングに与える影響—過去の影響は時間の経過と共に薄れるか」, 『理論と方法』 数理社会学会 32(1): 127-39.

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

85. \*18 金井 雅之, 2018, 「相対的比較と幸福度——アジア7ヶ国・地域の比較——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 4: 81-98.
86. 金井 雅之, 2018, 「ソーシャル・ウェルビーイング・アジア調査」, 『よろん』 122: 25-29.
87. 神原 理, 2014, 「川崎市における市民のコミュニティ意識とソーシャル・キャピタル(特集 社会開発と公益)」, 『公益学研究』 日本公益学会 14(1): 11-22. [査読有]
88. 神原 理, 2015, 「地域活動におけるブレインストーミングの活用方法: 創造的な思考と関係性を生み出すための手法」, 『専修商学論集』 100: 93-105.
89. 神原 理・中間 大維, 2015, 「社会的消費に関する意識調査: Web アンケートの分析結果(商学部創立 50 周年記念号)」, 『専修商学論集』 101: 101-16.
90. \*15 神原 理, 2015, 「川崎市民の地域意識と生活満足度」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 1: 23-38. [査読有]
91. 小池 隆生, 2016, 「拡大する高齢者の貧困」, 『ゆたかなくらし』 全国老人福祉問題協議会 405: 6-9.
92. 小池 隆生, 2017, 「現代日本における相対的貧困・困窮の諸相に見る『貧困の幅』」, 『専修大学社会科学研究所月報』 645: 38-50.
93. 小池 隆生, 2018, 「貧困認識と規定要因としての『農村的生活様式』—岩手県内自治体住民に対する意識調査結果から」, 『専修大学社会科学研究所月報』 663: 1-27.
94. \*16 小塩 隆士, 2016, 「ソーシャル・キャピタルと幸福度: 理解をさらに深めるために」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 2: 19-33. [査読有]
95. \*18 小林 盾・カローラ ホメリヒ, 2018, 「どのような言葉が人を幸せにするのか——自由回答のテキスト・マイニング分析を用いた混合研究法アプローチ」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 4: 31-47.
96. \*19 小林 盾・西村 謙一・川端 健嗣, 2019, 「主観的ウェル・ビーイングにおける美容資本の役割はなにか——2018 年インドネシアの地方自治意識調査の計量分析——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 5: 29-46.
97. 嶋根 克己, 2015, 「失われる記憶と編集される記憶—ユダヤ人虐殺にかかわる展示から—」, 『日仏社会学会年報』 26: 17-32. [査読有]
98. 嶋根 克己, 2016, 「書評 森謙二著『墓と葬送の社会史』『墓と葬送のゆくえ』(吉川弘文堂・2014 年)」, 『法社会学』 日本法社会学会 82: 282-89. [査読有]
99. 嶋根 克己, 2016, 「近代化する葬儀の諸課題: ベトナムと日本の比較から」, 『専修大学社会科学研究所月報』 641: 23-33.
100. 嶋根 克己, 2017, 「Katu 族の棺」, 『専修大学社会科学研究所月報』 642・643: 51-56.
101. 徐 一睿, 2015, 「『一帯一路』からみる中国国内における地域政策の変化と財政的課題: ローカルハブの構築に向けて」, 『Erina report』 環日本海経済研究所 127: 53-62.
102. 徐 一睿, 2016, 「平成大合併に対する再考: 長野県小川村を事例に」, 『専修大学社会科学研究所月報』 630・631: 630-31.
103. 徐 一睿, 2018, 「中国の統計水増し問題 相次いだ地方政府の『自白』 補助金制度の変革が引き金に」, 『週刊エコノミスト』 96(16): 82-84.
104. 所澤 新一郎・佐藤 慶一・太矢根 淳, 2018, 「<調査報告>復興ステークホルダーの探索的再構築に関する研究実践: 被災地・石巻での聞き取り調査から」, 『専修大学社会科学研究所月報』 660: 1-32.
105. \*16 白石 小百合・白石 賢, 2016, 「幸福の経済学-現状と課題から次のステップへ」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 2: 35-53. [査読有]
106. 鷺見 英司, 2015, 「地方財政健全化法下での地方自治体の財政健全化行動の実証分析」, 『日本地方財政学会研究叢書』 22: 130-56. [査読有]
107. 鷺見 英司, 2016, 「地方財政健全化法による地方自治体の効率化効果に関する実証分析」, 『日本地方財政学

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- 会研究叢書』 23: 31-54. [査読有]
108. 鷺見 英司, 2017, 「首長選挙における無投票当選の発生要因 (特集 まちづくりの公共選択)」, 『公共選択』 公共選択学会 (68): 85-102. [依頼論文]
109. 鷺見 英司, 2018, 「地方自治体の将来負担と効率性に関する実証分析」, 『日本地方財政学会研究叢書』 25: 29-55. [査読有]
110. 張 光雲, 2016, 「中国における DV 法的規制と DV 反撃殺傷行為の刑事法上の課題」, 『日本法學』 日本大学法学会 82(2): 493-533. [査読有]
111. 中島 正裕・川副 早央里・塩田 光・大矢根 淳, 2015, 「宮城県石巻市における仮設住宅団地の生活実態—東日本大震災発生から 1 年半後のコミュニティに着目して—」, 『農村計画学会誌』 34(2): 167-76. [査読有]
112. \*18 中村 知子, 2018, 「2017 年モンゴル国調査報告——都市開発、社会福祉サービスの現状を中心に——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 4: 49-64.
113. 原田 博夫, 2014, 「幸福感と社会関係資本 特集:『幸福度』再考」, 『計画行政』 日本計画行政学会 37(2): 23-28. [依頼論文]
114. \*16 原田 博夫, 2016, 「『幸福』研究の意義と可能性」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 2: 7-18. [査読有]
115. \*17 原田 博夫訳, 2017, 「フリードリッヒ・シュナイダー著 GDP, ウェルビーイング, 幸福とシャドーエコノミー—日本についての考察—」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 3: 33-51. [査読有]
116. 原田 博夫, 2017, 「ダナン市の経済開発と外資導入」, 『専修大学社会科学研究所月報』 642・643: 42-45.
117. 原田 博夫, 2019, 「川崎市税制の特徴と推移」, 『専修大学社会科学研究所月報』 669: 1-20.
118. \*19 原田 博夫, 2019, 「ソーシャル・ウェルビーイング研究の意義——GDP 指標へのチャレンジ——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 5: 89-109.
119. 丸茂 雄一, 2017, 「日本人の生活満足度の決定要因に関する実証的分析」, 『公益学研究』 日本公益学会 16(1): 21-30.
120. \*18 丸茂 雄一, 2018, 「いくつかの論点におけるソーシャル・ウェルビーイングの日韓比較」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 4: 9-29.
121. \*19 丸茂 雄一, 2019, 「日本人の職業満足度の決定要因」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 5: 9-27.
122. 宮下 量久・鷺見 英司, 2016, 「地方交付税の合併算定替と合併自治体の効率性に関するパネル・データ分析」, 『財政研究』 日本財政学会 12: 170-86. [査読有]
123. 宮下 量久・鷺見 英司, 2017, 「合併自治体の財政調整基金に関する実証分析」, 『日本地方財政学会研究叢書』 24: 125-49. [査読有]
124. 村上 俊介, 2015, 「望月市民社会論再考」, 『専修大学社会科学研究所月報』 620: 1-29.
125. 村上 俊介, 2015, 「社会科学研究所 2014 年度春季合宿研究会 (ベトナム南部・中部) 行程」, 『専修大学社会科学研究所月報』 625・626: 1-11.
126. 村上 俊介, 2016, 「古代日本史における『史観』の変遷—百舌鳥・古市古墳群を歩いて—」, 『専修大学社会科学研究所月報』 637・638: 59-75.
127. 村上 俊介, 2016, 「日本におけるベトナム研究の視座の変遷」, 『専修大学社会科学研究所月報』 641: 14-22.
128. 村上 俊介, 2017, 「経済発展 (開発) の中のベトナム中央高原」, 『専修大学社会科学研究所月報』 642・643: 90-99.
129. \*15 矢崎 慶太郎, 2015, 「ウェルビーイングの指標としての芸術」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 1: 51-61. [査読有]
130. \*17 矢崎 慶太郎, 2017, 「信頼: 社会学の基礎前提とソーシャル・ウェルビーイング調査結果の検討」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 3: 9-31. [査読有]

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

131. \*18 矢崎 慶太郎, 2018, 「書評：ジンメル『カントの義務論と幸福論』——ソーシャル・ウェルビーイング調査への応用——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 4: 65-72.
132. \*18 矢崎 慶太郎・中林 練訳, 2018, 「ゲオルク ジンメル著 カントの義務論と幸福論」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 4: 73-79.
133. \*19 矢崎 慶太郎, 2019, 「社会的システム理論における社会的包摂——盲点の観察としての芸術と学問——」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 5: 47-65.
134. 山崎 義広・鷲見 英司・長尾 雅信, 2015, 「小千谷市民による地域・コミュニティ評価に関する分析」, 『新潟大学経済論集』 99: 143-58.
135. \*15 李栄・宮川 英一訳, 2015, 「中国における幸福感の研究状況」, 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』 1: 39-47. [査読有]

### <図書>

◎書籍の著・編・訳の場合

著者 or 編者 or 訳者, 刊行年, 著者 or 編者 or 訳者『書籍タイトル』, 出版社名

◎編集書中の特定章の著・編・訳を担当している場合

著者 or 編者 or 訳者, 刊行年, 著者 or 編者 or 訳者『書籍タイトル』, 対象章番号「タイトル」, 出版社名

\*日本語以外の図書の場合、書籍タイトルをイタリック体、章タイトルをアポストロフィー内にて記載。

◎氏名の下線は当センター研究員および国内外コンソーシアムメンバーを示す。

1. Aldar, Dolgion, Bold Tsevegdorj, Byambasuren Yadmaa, Dashzeveg Lkhagvanoroy, and Batsugar Tsedendamba, 2018, *The Social Well-Being Survey of Mongolia*, The Independent Research Institute of Mongolia.
2. Cho, Byung-Hee, Jaeyeol Yee et al., 2018, *Beyond Suffering Society: Integrative Approach of Social Well-being Research and Practice*, 21st Century Books.
3. Harada, Hiroo, 2016, “Public Choice”, Gianpietro Mazzoleni ed., *The International Encyclopedia of Political Communication*, John Wiley & Sons, 1289-93. [査読有]
4. Hommerich, Carola, and Tim Tiefenbach, 2018, “The Structure of Happiness: Why Young Japanese Might be Happy After All”, Patrick Heinrich and Christian Galan eds., *Being Young in Super-Aging Japan*, Routledge, 132-49. [査読有]
5. Linuma, Takeko, 2017, “Les relations économiques, politiques et culturelles entre l'Union européenne et le Japon”, Jacques Bourrinet ed., *Les Frontières extérieures de l'Union européenne*, UIEM/CERIC, 155-60.
6. Ko, Dong Hyun, Jaeyeol Yee, Myung Sun Moon, and Soul Han, 2016, *Social Economy and Social Value: Ancient Future of Capitalism*, Hanul Academy.
7. Ohashi, Hideo, 2015, “A Mixed Effect of Globalization on China's Economic Growth”, Toshiaki Hirai ed., *Capitalism and the World Economy: The Light and Shadow of Globalization*, Routledge, 234-52. [査読有]
8. Shimane, Katsumi, 2014, “Xã hội vô cảm và giai đoạn cuối đời trong thời đại ít trẻ em- già hóa dân số ở Nhật Bản”, *Quan hệ Việt Nam-Nhật Bản 40 năm nhìn lại và định hướng tương lai*, Nhà xuất bản Khoa học xã hội. [査読有]
9. Shimane, Katsumi, 2018, “Các vấn đề về tang lễ hiện đại hóa: So sánh đối chiếu Việt Nam và Nhật Bản”, Trần Quang Minh and Ngô Hương Lan eds., *Building a Sustainable Development Society: Vietnam-Japan Cooperation*, National University Press, Hanoi.
10. Xu, Yirui, 2016, “Extended Official Responsibility and the Red Card Rule in China”, Masashi Yamamoto and Eiji Hosoda eds., *The Economics of Waste Management in East Asia*, Routledge.
11. Yee, Jaeyeol, 2016, “Social Quality, Competition and Happiness”, Jaeyeol Yee and Hyunchin eds., *Connected Asia: Intellectual Map of Flows and Relations*, Chinjinjin. [査読有]
12. Yee, Jaeyeol, 2017, “From System Failure to Hidden Complexity: Changing Nature of Disasters in

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Korea”, Sang-Jin Han ed., *Beyond Risk Society: Ulrich Beck and the Korean Debate*, Seoul National University Press. [査読有]

13. Yee, Jaeyeol, 2018, “Transition and Social Innovation”, Myung-Kyu Park and Jaeyeol Yee eds., *Social Value and Social Innovation: Toward a Symbiotically Sustainable Community*, Hanul Aacademy, 358-405.
14. Yee, Jaeyeol et al., 2018, *Reflections of the Social Change in Korea*, Jinjinjin.
15. Yee, Jaeyeol et al., 2018, *Korean Social Trend 2018*, Statistics Korea.
16. Yee, Jaeyeol, 2018, “Sewol Ferry Tragedy: System Theoretic Diagnosis and Prescription”, Jaeyeol Yee et al., *The Sewol Ferry Disaster: Social Science Perspectives*, Orom.
17. 張 光雲訳, 2015, 日高義博著, 『違法性的基礎理論』, (中国) 法律出版社.
18. 飯沼 健子, 2018, 「ラオスにおける民間部門のための人材育成」, 内野明編, 『メコン地域におけるビジネス教育』, 白桃書房, 217-38.
19. 稲田 十一, 2017, 『社会調査からみる途上国開発——アジア 6 カ国の社会変容の実像』, 明石書店.
20. 稲田 十一, 2018, 「開発の政治経済学のいくつかの視角」, 「脆弱国家論」, 木村宏恒監修, 稲田十一・小山田英治・金丸裕志・杉浦功一編, 『開発政治学を学ぶための 61 冊: 開発途上国のガバナンス理解のために』, 明石書店, 25-30・99-110. [査読有]
21. 大橋 英夫, 2014, 「貿易政策——輸出振興策の調整」, 中兼和津次編, 『中国経済はどう変わったか——改革開放以後の経済制度と政策を評価する』, 国際書院, 177-205. [査読有]
22. 大橋 英夫, 2014, 「直接投資」, 中国研究所編, 『中国年鑑 2014』, 毎日新聞社, 177-80.
23. 大橋 英夫, 2015, 「直接投資」, 中国研究所編, 『中国年鑑 2015』, 毎日新聞社, 189-92.
24. 大橋 英夫, 2016, 「中国企業の対米投資——摩擦・軋轢の争点は何か」, 加藤弘之・梶谷懐編, 『二重の罍を超えて進む中国型資本主義——「曖昧な制度」の実証分析』, ミネルヴァ書房, 228-47.
25. 大橋 英夫, 2016, 「直接投資」, 中国研究所編, 『中国年鑑 2016』, 明石書店, 187-90.
26. 大橋 英夫, 2016, 「中国経済のパラダイム転換——「新常态」の衝撃」, 21 世紀中国総研編, 『中国情報ハンドブック[2016 年版]』, 蒼蒼社, 29-53.
27. 大橋 英夫, 2017, 「中国の過剰生産能力と国有企業改革」, 日本国際問題研究所編, 『国際秩序動揺期における米中の動勢と米中関係: 中国の国内情勢と対外政策』日本国際問題研究所 研究報告書, 日本国際問題研究所, 47-62.
28. 大橋 英夫, 2017, 「『国家資本主義』をめぐる米中経済関係」, 日本国際問題研究所編, 『国際秩序動揺期における米中の動勢と米中関係: 米中関係と米中をめぐる国際関係』日本国際問題研究所 研究報告書, 日本国際問題研究所, 73-86.
29. 大橋 英夫, 2017, 「新たな段階を迎えた対外開放」, 大西康雄編, 『習近平政権の課題と展望』日本貿易振興機構アジア経済研究所 調査研究報告書, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 64-87.
30. 大橋 英夫, 2017, 「直接投資」, 中国研究所編, 『中国年鑑 2017』, 明石書店, 175-78.
31. 大橋 英夫, 2017, 「トランプ米新政権の通商政策と中国の対応」, 21 世紀中国総研編, 『中国情報ハンドブック[2017 年版]』, 蒼蒼社, 36-59.
32. 大橋 英夫, 2018, 「対外貿易と直接投資」, 梶谷懐・藤井大輔編, 『現代中国経済論 [第 2 版]』, ミネルヴァ書房, 241-57.
33. 大橋 英夫, 2018, 「米中経済摩擦の構造」, 亜細亜大学アジア研究所編, 『揺れる国際秩序とアジア』, 亜細亜大学アジア研究所, 61-100.
34. 大橋 英夫, 2018, 「直接投資」, 中国研究所編, 『中国年鑑 2018 年版』, 明石書店, 187-90.
35. 大橋 英夫, 2018, 「トランプ米政権の対中通商政策の展開 (2017-2018 年)」, 21 世紀中国総研編, 『中国情報ハンドブック[2018 年版]』, 蒼蒼社, 47-61.
36. 大矢根 淳, 2014, 「生活再建・コミュニティ復興に寄り添う——長期にわたる社会学的被災地研究——」, 木村周平

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

編, 『災害フィールドワーク論』, 古今書院, 115-29.

37. 大矢根 淳, 2015, 「現場で組み上げられる再生のガバナンス—既定復興を乗り越える実践例から—」, 清水展編, 『新しい人間,新しい社会—復興の物語を再創造する—』(災害対応の地域研究第5巻), 京都大学学術出版会, 51-78.

38. 大矢根 淳, 2015, 「小さな浜のレジリエンス—東日本大震災・牡鹿半島小湊浜の経験から—」, 清水展編, 『新しい人間,新しい社会—復興の物語を再創造する—』(災害対応の地域研究第5巻), 京都大学学術出版会, 267-97.

39. 大矢根 淳, 2017, 「ベトナムの都市化と居住環境構制—ドラスティックな変容の実相を読み解く視角—」, 佐藤康一郎編, 『変容するベトナムの社会構造—ドイモイ後の発展と課題—』社会科学叢書 19, 専修大学出版局, 153-83.

40. 大矢根 淳, 2017, 「震災復興とレジリエンス」, 石原慎士他編著, 『産業復興の経営学—大震災の経験を踏まえて—』, 同友館, 2-21.

41. 大矢根 淳, 2018, 「アルメニア・スピタク地震の復興・生活再建の諸相」, 専修大学人文科学研究所編, 『災害その記録と記憶』, 専修大学出版局, 111-64.

42. 小林 盾, 2017, 『ライフスタイルの社会学: データからみる日本社会の多様な格差』, 東京大学出版会.

43. 嶋根 克己, 2017, 「変貌するベトナムの葬送文化」, 佐藤康一郎編, 『変容するベトナムの社会構造—ドイモイ後の発展と課題—』社会科学叢書 19, 専修大学出版局, 121-51.

44. 徐 一睿, 2016, 「地方統制—政治選抜トーナメント方式について」, 「地方財政の土地開発利益依存と脱却への模索」, 大西広他, 『中成長を模索する中国「新常态」への政治と経済の揺らぎ』, 慶應義塾大学出版会.

45. 徐 一睿, 2018, 「新常态における中国の政府間財政関係」, 四方理人・宮崎雅人・田中聡一郎編著, 『収縮経済下の公共政策』, 慶應義塾大学出版会, 155-74.

46. 徐 一睿, 2018, 「アジアにおける発展途上国の選択」, 朱永浩編著, 『アジア共同体構想と地域協力の展開』, 文眞堂, 180-94.

47. 徐 一睿, 2018, 「地域公共財から見るインフラ投資への日中協力の構築」, 進藤栄一・周瑋生編著, 『一带一路からユーラシア新世紀の道』, 日本評論社, 70-76.

48. 張 光雲, 2014, 「窃盗罪の実行の着手」, 板倉宏監修, 『現代の判例と刑法理論の展開』, 八千代出版, 235-47. [査読有]

49. 張 光雲, 2018, 「中国刑法における違法性論」, 高橋則夫他編, 『日高義博先生古稀祝賀論文集 上巻』, 成文堂, 69-86. [査読有]

50. 原田 博夫, 2018, 「経済成長の前提・成果と課題: ウェルビーイングの観点から」, 進藤栄一・周瑋生編著, 『一带一路からユーラシア新世紀の道』, 日本評論社, 212.

51. 村上 俊介, 2017, 「ドイツのベトナム人—旧東ドイツの契約労働者たちの軌跡—」, 佐藤康一郎編, 『変容するベトナムの社会構造—ドイモイ後の発展と課題—』社会科学叢書 19, 専修大学出版局, 209-43.

52. 矢崎 慶太郎, 2016, 『抑圧と余暇のはざままで: 芸術社会学の視座と後期東ドイツ文学』, 専修大学出版局.

### <学会発表>

◎発表者, 発表年, 学会名, 開催地, 開催場所, 発表日.

◎氏名の下線は当センター研究員および国内外コンソーシアムメンバーを示す。

1. \*6 Adnan, Ricardi S, 2018, Leisure, Liberalism, and Socio-Economic Life: The Social Changing in Depok City, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
2. \*5 Aldar, Dolgion, 2017, Social Cohesion and Subjective Well-Being Survey in Mongolia, 2017 The



法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
3. Aldar, Dolgion, 2018, The Social Well-Being Survey of Mongolia, “Think-Tank Gathering Event on Social Well-Being Survey of Mongolia” organized by IRIM (Independent Research Institute of Mongolia), Ulaanbaatar (Mongolia), ADB Mongolia Office, 2018.12.12.
  4. \*7 Anam, Fadlan Khaerul, 2018, Authorities of Unhappiness: Networks, Actors, and Policy on Suicide Prevention in 8 Asian Hyperlinked Societies, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
  5. \*8 Anam, Fadlan Khaerul, 2018, Unhappier God in Global Asia: Globalization, Religion and “Social Populicy” in Changing Happiness of 8 Asian Hyperlinked Societies, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
  6. Anh, Dang Nguyen, 2016, Report on SWB Vietnam Survey, The First Camp Seminar of International Consortium for Social Well-being Studies, Yamanashi (Japan), Fuji-Yamanakako Seminar House of Senshu University, 2016.2.18.
  7. \*3 Anh, Dang Nguyen, 2016, Social Well-being in Vietnam: Level and Determinants, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
  8. \*5 Anh, Dang Nguyen, 2017, Strengthening Social Welfare Policy for Development: Opportunities and Challenges for ASEAN Countries, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.
  9. Anh, Dang Nguyen, 2018, Quality of Life in Viet Nam: The Important Roles of Gender and Social Capital, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]
  10. \*7 Anh, Dang Nguyen, 2018, Social Well-being and Social Inclusion in Viet Nam: Evidence from a Nationwide Survey, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
  11. \*9 Anh, Dang Nguyen, 2018, Sustainable Poverty Alleviation, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター，東京，専修大学神田校舎，2018.11.25.
  12. Breznau, Nate and Carola Hommerich, 2018, The Limits of (In)Equality: Liberalization, Solidarity and Support for Welfare Policy, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.19. [査読有]
  13. \*5 Chen, Yi-fu, 2017, Social Unfairness and Life Satisfaction: The Findings from 2017 SWB Taiwan Survey, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
  14. \*6 Dwianto, Raphaella Dewantari, 2018, Safeguarding Children's Well-being: The Case of Jidokan(children's hall) in urban Japan, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
15. **\*6** Fatimaningsih, Endry, 2018, Child Protection in Parent's Perspective, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
  16. Harada, Hiroo, 2014, Social Capital of Seven Countries/Areas in East Asia: From the Questionnaire Approach, XVIII ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Kanagawa (Japan), Pacifico Yokohama, 2014.7.17. [査読有]
  17. Harada, Hiroo, 2014, Social Well-Being/Capital in Asia: From the Questionnaire Approach in Well-being and Quality of Life in Asia (2), 2014 ANPOR Annual Conference (Asian Network for Public Opinion Research), Niigata (Japan), Toki Messe Niigata, 2014.11.29. [査読有]
  18. Harada, Hiroo, 2015, D4 session: Social Well-being/Capital in East Asia: From the Questionnaire Method, Moderator and Presenter, Comparison of Social Well-being/Capital in East Asia, 9th ISTR Asia Pacific Conference (International Society for Third-sector Research), Tokyo (Japan), Nihon University Suidobashi Campus, 2015.8.27. [査読有]
  19. Harada, Hiroo, 2016, Social Well-being in Japan: From the Viewpoint of Age, Sex, Residence and Relative Wealthiness of A Questionnaire Survey, JEP A 2016 International Conference (Japan Economic Policy Association), Hokkaido (Japan), Onuma International Seminar House, 2016.10.30. [査読有]
  20. Harada, Hiroo, 2016, Opening Address, The First Camp Seminar of International Consortium for Social Well-being Studies, Yamanashi (Japan), Fuji-Yamanakako Seminar House of Senshu University, 2016.2.18.
  21. **\*3** Harada, Hiroo, 2016, Organizer, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
  22. **\*3** Harada, Hiroo, Yasuhiro Tanaka, and Eiji Sumi, 2016, Social Well-being in Japan: Analysis from Relative Income Hypothesis, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
  23. Harada, Hiroo, 2016, Happiness in Japan: From the Viewpoint of Age, Sex and Relative Wealthiness, 3rd ISA Forum of Sociology (International Sociological Association), Vienna (Austria), University of Vienna, 2016.7.11. [査読有]
  24. Harada, Hiroo, 2016, Social Well-being in Japan: From the Viewpoint of Age, Sex, Residence and Relative Wealthiness of a Survey, IPSA 24th World Congress of Political Science (International Political Science Association), Poznań (Poland), Poznań Congress Center, 2016.7.25. [査読有]
  25. **\*4** Harada, Hiroo and Surichai Wun'gaeo, 2017, Social Well-being and Multi-level Learning in East and Southeast Asia, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.10.
  26. Harada, Hiroo, 2017, Well-being/Happiness in Japan: From a Questionnaire Survey on Lifestyle and Values, 2017 ISA RC55 Mid-term Conference (Research Committee on Social Indicators of the International Sociological Association), Taipei (Taiwan), Academia Sinica, 2017.4.21. [査読有]
  27. Harada, Hiroo, 2017, Well-being in Japan: From a Questionnaire Survey on 2015, 10th Annual INAS Conference (International Network of Analytical Sociologists), Oslo (Norway), University of Oslo, 2017.6.9. [査読有]

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

28. Harada, Hiroo, 2017, Well-being in Japan: From a Questionnaire Survey on 2015, The 3rd Biennial IAJS Conference (International Association for Japan Studies), Haifa (Israel), University of Haifa, 2017.6.11. [査読有]
29. Harada, Hiroo, 2017, Well-being in Japan: From a Questionnaire Survey on 2015, 15th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Innsbruck (Austria), University of Innsbruck, 2017.9.28. [査読有]
30. \*5 Harada, Hiroo and Eiji Sumi, 2017, Well-being in a Japanese Survey: From the Relative Income Hypothesis, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
31. Harada, Hiroo, 2017, Opening Remarks, “Searching for Alternatives in Future Society”, Conference organized by SNUAC (Seoul National University Asian Center) Civil Society Program and ASPOS (Association for the Study of Political Science), Busan (Korea), Pukyong National University, 2017.11.24.
32. \*6 Harada, Hiroo and Eiji Sumi, 2018, Happiness and Social Capital in Contemporary Japan: Study of Lifestyle and Values Using the Relative Income Hypothesis, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
33. \*7 Harada, Hiroo and Eiji Sumi, 2018, Happiness and Relative Income Hypothesis in Contemporary Japan: Study of Lifestyle and Values, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
34. Harada, Hiroo and Eiji Sumi, 2018, Comparison of Happiness and Relative Income Hypothesis between in Japan and Korea: Study of Lifestyle and Values, The 14th APSA Conference (Asia Pasific Sociological Association), Kanagawa (Japan), Seisa University Hakone Campus, 2018.10.5. [査読有]
35. Harada, Hiroo, 2018, Opening Remarks, “International Conference on East Asia in the 21st Century: Searching for the Alternatives”, organized by ASPOS (Association for the Study of Political Science) and SNUAC (Seoul National University Asian Center), Kyoto (Japan), Research Institute for Humanity and Nature, 2018.10.26.
36. \*8 Harada, Hiroo and Eiji Sumi, 2018, Comparative Analysis of Income and Happiness between in Japan and Korea: Study of Lifestyle and Values, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
37. Hommerich, Carola and Koki Shimizu, 2018, The Structure of Happiness across Age: A Method-Mix Approach with Focus on Japan's “Happy Youth”, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.18. [査読有]
38. \*4 Iinuma, Takeko, 2017, Social Well-being in Japan, Korea, and Vietnam: A Gender Perspective, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.
39. Iinuma, Takeko, 2017, Les relations économiques union européenne-Japon, Le 10e Anniversaire des Universités internationales d'été du Mercantour, Saint-Martin Vésubie (France), Saint-Martin Vésubie (France), 2017.9.7. [招待講演]
40. \*5 Iinuma, Takeko, 2017, Development Cooperation for CLMV: Regional Integration and the Pursuit of Equitable Development, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.

41. \*8 Im, Dong-Kyun, 2018, Social Psychological Anatomy of Social Well-being: A Need-Based Approach, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.

42. Inada, Juichi, 2015, Perception of Risks and Social Safety Net in East Asia: Cases of Indochina Countries , International Symposium organized by GFJ (The Global Forum of Japan), Tokyo (Japan), The Prince Park Tower Tokyo, 2015.12.10. [招待講演]

43. \*5 Inada, Juichi, 2017, The Impact of Chinese Aid and Its Development Model: A Case of Cambodia and its Implications for ASEAN, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.

44. \*4 Inada, Juichi, 2017, Post-conflict Development and Social Well-being: A Comparative Study of Cambodia and Timor Leste, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.

45. Inada, Juichi, 2018, The Impact of Chinese Aid and the “Beijing Consensus”: A Case of Cambodia and its Implications to Developing Countries, IPSA 25th World Congress of Political Science (International Political Science Association), Brisbane (Australia), Brisbane Convention Center, 2018.7.22.

46. Inagaki, Yusuke, 2018, Differences in the Semantic Contents of Happiness: A Cross-National Comparison, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]

47. \*4 Jumnianpol, Surangrut, 2017, Reports on 2016 Social Well-being Survey in Thailand, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.

48. \*8 Jumnianpol, Surangrut, Montakarn Chimmamee, and Surichai Wun'gao, 2018, Development and Social Mobilization: Intergenerational Class Mobility and Subjective Social Well-Being in Asia, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.

49. Kambara, Satoshi, 2014, Community Awareness and Life Satisfaction of Citizens in Kawasaki City, 2014 ANPOR Annual Conference (Asian Network for Public Opinion Research), Niigata (Japan), Toki Messe Niigata, 2014.11.29. [査読有]

50. Kanai, Masayuki, 2014, Social Network, Family Policy, and Fertility Decision, 2014 ANPOR Annual Conference (Asian Network for Public Opinion Research), Niigata (Japan), Toki Messe Niigata, 2014.11.29. [査読有]

51. Kanai, Masayuki, 2015, What Type of Civil Engagement and Trust Contributes to Subjective Well-being? : The Linkage between Social Capital and Social Well-being, 9th ISTR Asia Pacific Conference (International Society for Third-sector Research) , Tokyo (Japan), Nihon University Suidobashi Campus, 2015.8.27. [査読有]

52. Kanai, Masayuki, 2016, The Effect of Perceived Relative Income on Subjective Well-being Compared to Objective Income, 9th Annual INAS Conference (International Network of Analytical Sociologists) , Utrecht (Netherlands), Utrecht University, 2016.6.4. [査読有]

53. \*3 Kanai, Masayuki, 2016, Survey Design and Descriptive Outcomes of Japanese Survey, 2016

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
54. [Kanai, Masayuki](#), 2016, Coexisting Mechanisms from Bonding/Bridging Social Capital to Subjective Well-being, 3rd ISA Forum of Sociology (International Sociological Association), Vienna (Austria), University of Vienna, 2016.7.12. [査読有]
  55. [Kanai, Masayuki](#), 2016, Perception of Inequality and Social Well-being, IPSA 24th World Congress of Political Science (International Political Science Association), Poznań (Poland), Poznań Congress Center, 2016.7.25. [査読有]
  56. [Kanai, Masayuki](#), 2016, Who is the Reference Point in Judging One's Well-being?: Comparison between Three Types of Relative Deprivation Measure, The 6th Joint Japan-US Conference on Mathematical Sociology and Rational Choice, Seattle (USA), Sheraton Seattle Hotel, 2016.8.19. [査読有]
  57. [Kanai, Masayuki](#), 2016, Dual Deprivation of Well-being by One's Origin: The Effect of Three Kinds of Relative Deprivations on Subjective Well-being, 2016 ISA RC28 Summer Meeting (Research Committee on Social Stratification and Mobility of the International Sociological Association), Bern (Switzerland), University of Bern, 2016.8.31. [査読有]
  58. [Kanai, Masayuki](#), 2017, The Effect of Subjective Mobility on Life Satisfaction: Comparison between Japan and Korea, 2017 ISA RC55 Mid-term Conference (Research Committee on Social Indicators of the International Sociological Association), Taipei (Taiwan), Academia Sinica, 2017.4.21. [査読有]
  59. [Kanai, Masayuki](#), 2017, How and Why Perceived Unfairness Lowers Wellbeing? Based on Empirical Evidences from Asian Countries, 10th Annual INAS Conference (International Network of Analytical Sociologists), Oslo (Norway), University of Oslo, 2017.6.9. [査読有]
  60. [Kanai, Masayuki](#), 2017, Latent Transition from Modern to Post-modern Values in Contemporary Japan: Changing Roles of Bonding and Bridging Social Capital, The 3rd Biennial IAJS Conference (International Association for Japan Studies), Haifa (Israel), University of Haifa, 2017.6.11. [査読有]
  61. [Kanai, Masayuki](#), 2017, Social Capital and Well-being in Plural Modernizations: Comparison between Japan, Korea, and Vietnam, ICAS 10 (International Convention of Asia Scholars), Chiangmai (Thailand), Chiang Mai International Exhibition and Convention Center, 2017.7.20. [査読有]
  62. [Kanai, Masayuki](#), 2017, How Bonding and Bridging Social Capital Promote Well-being? Comparison between Japan and Korea, 15th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Innsbruck (Austria), University of Innsbruck, 2017.9.28. [査読有]
  63. \*5 [Kanai, Masayuki](#), 2017, The Impact of Social Comparisons on Subjective Well-being: Cross-National Analyses of SWB Survey Data in Japan, Korea, Vietnam, the Philippines, and Thailand, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
  64. \*6 [Kanai, Masayuki](#), 2018, A Growing Trend in the Effect of Downward Mobility on Life Satisfaction in Japan, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
  65. \*7 [Kanai, Masayuki](#), 2018, Structure of Perceived Domain Unfairness and Its Impact on Subjective Wellbeing: Cross-National Comparison between Seven Asian Societies, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
  66. [Kanai, Masayuki](#), 2018, Emerging Effect of Mobility on Subjective Well-Being: Evidence from the SSM

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Surveys 1975-2015 in Japan, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.18. [査読有]
67. Kanai, Masayuki, 2018, Heterogeneous Effects of Income and Relative Comparison on Well-Being in East and Southeast Asian Societies, The 14th APSA Conference (Asia Pasific Sociological Association), Kanagawa (Japan), Seisa University Hakone Campus, 2018.10.5. [査読有]
68. \*8 Kanai, Masayuki, 2018, Religion, Spirituality, and Wellbeing in Asian Societies: Comparative Analyses of Social Wellbeing Survey Data, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
69. Kanai, Masayuki, 2018, Quality of Life in East and Southeast Asia: Findings of the Social Well-Being Survey in Asia (SoWSA), Does city living makes us happy? International conference on the well-being and quality of life in the city, Seoul (Korea), The Seoul Institute, 2018.12.6. [招待講演]
70. Kanai, Masayuki, 2019, Social Mechanism for Wellbeing Inequality: How Perceived Unfairness Lowers Wellbeing?, International Workshop: Frontiers of Computational Social Science and Analytical Sociology, Tokyo (Japan), Shibaura Campus of Shibaura Institute of Technology, 2019.2.12.
71. Kim, Ee-Sun, Hearan Koo, and Jaeyeol Yee, 2017, A Comparative Study of Social Well-being and its Determinants in Three Asian Countries: Korea, Japan, and Vietnam, ICAS 10 (International Convention of Asia Scholars), Chiangmai (Thailand), Chiang Mai International Exhibition and Convention Center, 2017.7.20.
72. \*6 Kim, Seokho, 2018, Do Social Support Networks Improve Happiness?, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
73. \*7 Kim, Seokho, 2018, The Effects of Support Networks on Subjective-Wellbeing in Asian Countries , 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
74. \*4 Kim, Seokho, and Jaeun Lim, 2017, Patterns of Social Support Networks in Korea, Japan and Vietnam, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.
75. Kim, Seokho and Jaeun Lim, 2017, Patterns of Social Support Networks and Their Impact on Social Well-being in Korea, Japan and Vietnam, ICAS 10 (International Convention of Asia Scholars), Chiangmai (Thailand), Chiang Mai International Exhibition and Convention Center, 2017.7.20.
76. \*5 Kobayashi, Jun and Carola Hommerich, 2017, Are Happiness and Unhappiness Two Sides of the Same Coin?: A Case in Japan, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
77. \*6 Kobayashi, Jun and Carola Hommerich, 2018, Happiness in a Word: Text Mining Analyses of Open-Ended Data in Indonesia and Japan, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
78. \*7 Kobayashi, Jun and Dolgion Aldar, 2018, Is Well-being Equal or Unequal?: Causes of Happiness, Satisfaction, and Health in Asian Societies, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

79. Kobayashi, Jun, 2018, Why Do Happiness and Satisfaction Not Coincide? Strict Comparison of Two Sub-Domains of Subjective Well-Being, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.17. [査読有]
80. \*8 Kobayashi, Jun and Dolgion Aldar, 2018, Well-Being Inequality: Comparative Analyses of East and Southeast Asia, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
81. \*5 Koo, Hearan, 2017, Do Perceived Ingredients of Success Matter for the Well-being of Society? An Empirical Investigation, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
82. \*3 Koo, Hearan, Jaeyeol Yee, Eun-Young Nam, and Ee-sun Kim, 2016, Dimensions of Social Wellbeing and Determinants in Korea: Personal, Relational, and Societal Aspects, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
83. Koo, Hearan, 2018, A Good Neighbor Is Better? The Role of Neighborhood Cohesion in Well-Being in Asian Countries, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]
84. \*7 Koo, Hearan, Dong-Kyun Im, and Sang-Hee Park, 2018, Multiple Ways to Improve Life Satisfaction in Asian Countries, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
85. \*6 Lawang, Robert M. Z., 2018, Social Poverty in Two Extreme Cases in Manggarai - East Nusa Tenggara Province, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
86. Marumo, Yuichi, 2015, Some Causal Models of Relationships between Social Well-being and Community Resilience by Structural Equation Modeling, 9th ISTR Asia Pacific Conference (International Society for Third-sector Research), Tokyo (Japan), Nihon University Suidobashi Campus, 2015.8.27. [査読有]
87. Matsuzawa, Akemi, Eiko Horikoshi, Mai Yamaguchi, and Naomi Suzuki, 2017, Home Visiting Services and Outcomes for Informal Home Carers in Japan, 7th International Carers Conference (Carers Australia), Adelaide (Australia), Adelaide Convention Centre, 2017.10.4. [査読有]
88. \*5 Murakami, Shunsuke, 2017, Changes in the Viewpoint for the Development of Vietnam in Japan, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.
89. Ohashi, Hideo, 2014, Getting There: Strategies for and Challenges of the Transition Period, "China's New Development: Common Visions for Asian-European Co-operation", International Conference organized by FES (the Friedrich-Ebert-Stiftung) and CAFIU (Chinese Association for International Understanding), Tutzing (Germany), Evangelische Akademie, 2014.6.18.
90. Ohashi, Hideo, 2015, New Directions in Mega FTA of East Asia: A Japanese Perspective, Shanghai Forum 2015, Shanghai (China), Shanghai International Convention Center, 2015.5.23.
91. Ohashi, Hideo, 2017, The Outlook for China's Economic "New Normal", "Battle Symposium on American Policy" Symposium organized by Miller Center, Charlottesville (USA), Miller Center, University of

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Virginia, 2017.11.19.

92. Ohashi, Hideo, 2018, China's Economic Growth and Industrial Transformation, "Mainland China's Reform and Opening up, 1978-2018: Prospect and Challenge", International Conference organized by MAC (Mainland Affairs Council), Taipei (Taiwan), Shangri-la Far Eastern Plaza Hotel, 2018.10.19.

93. Osaki, Hiroko and Tatsuro Sakano, 2016, Institutional Conditions for the Creation of Moralistic Trust, 3rd ISA Forum of Sociology (International Sociological Association), Vienna (Austria), University of Vienna, 2016.7.12. [査読有]

94. Osaki, Hiroko, 2017, Trust and Life Satisfaction in Japan, Korea and Vietnam, ICAS 10 (International Convention of Asia Scholars), Chiangmai (Thailand), Chiang Mai International Exhibition and Convention Center, 2017.7.20.

95. \*6 Osaki, Hiroko, 2018, How Does Social Capital Affect the Relationship between Economic Affluence and Subjective Well-being?, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.

96. \*7 Osaki, Hiroko, 2018, Comparative Analysis of the Effects of Income and Trust on Happiness in Asian Countries, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.

97. \*8 Pattinasarany, Indera Ratna Irawati, 2018, Social Well-Being in Indonesia: Across Two Different Episodes of Economic Growth and Income Inequality, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.

98. \*6 Pattinasarany, Indera Ratna Irawati, 2018, Inequality and Happiness in Indonesia, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.

99. \*7 Pattinasarany, Indera Ratna Irawati, 2018, Happiness and Life Satisfaction among East and Southeast Asian Countries, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.

100. \*3 Porio, Emma, 2016, Social Well-Being and Quality of Life in the Philippines: Trends and Patterns, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.

101. \*4 Porio, Emma and Justin See, 2017, Social Well-being in the Philippines: Indicators and Patterns, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.

102. \*4 Porio, Emma, 2017, SDGs and Social Well-being in Asia: Implications for Knowledge Mobilization and Monitoring Progress, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.10.

103. \*6 Porio, Emma and Justin See, 2018, Gender, Social Capital and Well-being: Building Adaptive Capacities and Climate Resilience in Disaster Prone Communities in the Philippines, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being



法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
104. \*7 Porio, Emma and Justin See, 2018, Social Capital and Well-Being: Interrogating Vulnerability Adaptive Capacities in Disaster Prone Communities in the Philippines and Vietnam, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
105. Porio, Emma, 2018, Climate and Disaster Risks, Resilience and Sustainability Challenges in Asian Cities, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.18. [査読有]
106. \*8 Porio, Emma and Noralene Uy, 2018, Social Well-Being, Fairness of Treatment and Inequality in Urban-Rural Philippines, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
107. \*9 Porio, Emma, 2018, Social Capital, Gender and Social Infrastructural Ties in Disaster Prone Communities, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
108. \*6 Sardjo, Sulastri, 2018, Model of Village Conservation: A 'Distorted' Social Transformation? Case Study: MKK Sukagalih, Cipeteuy Village, Halimun Salak National Park Corridor, Sukabumi, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
109. \*1 Schneider, Friedrich, 2014, Well-being and the Shadow Economy, 国際シンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.12.6.
110. \*4 Seda, Francisia S.S.E., 2017, Policies, Social Exclusion, and Social Wellbeing in Indonesia and Malaysia, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.
111. \*5 Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Rika Febriani, and Pebriansyah, 2017, Social Policy, Social Exclusion, and Social Wellbeing In The Context of Southeast Asia: A Case Study of Papua, Indonesia, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.
112. Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Kevin Nobel Kurniawan, and Muhammad R. Damm, 2018, Social Exclusion, Religious Capital, and the Quality of Life: Multiple Case Studies of Indonesia and Thailand, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]
113. \*7 Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Rika Febriani, Kevin Nobel Kurniawan, and Muhammad R. Damm, 2018, The Paradox of Relational Well-Being: Comparative Study between Southeast and East Asian Countries, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
114. \*8 Seda, Francisia S.S.E., Lugina Setyawati, Yosef Hilarius Timu Pera, Muhammad Damm, and Kevin Nobel Kurniawan, 2018, Religious Capital and Relational Well Being in the Context of Globalization: A

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Comparative Study between Southeast Asian and East Asian Countries, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
115. \*7 Sen, Yow-Suen, 2018, Self-Reliant Taiwanese: Peculiarity, Characteristics, and Consequences, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
116. \*7 Shibai, Kiyohisa, 2018, What is the Causes of the Shadow of Coming War?, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
117. Shimane, Katsumi, 2014, Social Rituals in South East Asia from the Aspect of Social Network, 2014 ANPOR Annual Conference (Asian Network for Public Opinion Research), Niigata (Japan), Toki Messe Niigata, 2014.11.30. [査読有]
118. Shimane, Katsumi and Keitaro Yazaki, 2015, How the Tie with Neighborhood Weaken? : From the Aspect of Participation to Marriage and Funeral Ceremony, 9th ISTR Asia Pacific Conference (International Society for Third-sector Research) , Tokyo (Japan), Nihon University Suidobashi Campus, 2015.8.27. [査読有]
119. \*4 Shimane, Katsumi, 2017, The Meaning of Social Bond with the Dead: How the Asians maintain the relationship with the Invisible People?, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.10.
120. Shimane, Katsumi, 2017, The Social Bond with the Dead: How the Funeral Transformed Rapidly in Japan?, First Kyoto Workshop on Evolutionary Thanatology: An Integrative Approach to the Study of Death and Dying, Kyoto (Japan), Kyoto University, 2017.3.24.
121. Shimane, Katsumi, 2017, The Rights to be Cared in the End-of-Life and After-Life: Transformation of Aging and Dying in Japan, Karl Marx's Thought on Distributive Justice and Its Current Relevance (Marx 200), Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.5.17.
122. \*5 Shimane, Katsumi and Masayuki Kanai, 2017, Ancestor Worship and Subjective Well-being: Cross-national Comparison between East and Southeast Asian Countries, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.
123. \*6 Shimane, Katsumi, 2018, Transformation of the Family and Funeral System During Modernization, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
124. \*7 Shimane, Katsumi, 2018, Death, Dying and Social Well-being in Society: A Comparative Study in East and Southeast Asia, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
125. Shimane, Katsumi, 2018, Outsourcing of Death Treatment under Modernization: Comparative Studies for Funeral Ceremony, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.20. [査読有]
126. Shimane, Katsumi and Dang Thi Viet Phuong, 2018, Transformation of Ancestor Worship in Vietnam and Japan under Shrinking Family, The 14th APSA Conference (Asia Pasific Sociological Association),

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Kanagawa (Japan), Seisa University Hakone Campus, 2018.10.5. [査読有]
127. \*5 Shin, In Chol and Jaeyeol Yee, 2017, Harmonization of SWB Survey Data: Practical Guide for Data Cleaning and Utilization for Comparative Analysis, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
128. \*3 Sudjatmiko, Iwan Gardono, 2016, Social Well-being Research and Policy in Indonesia, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
129. \*4 Sudjatmiko, Iwan Gardono, Ganda Upaya, Indera Ratna Irawati Pattinasarany, Jauharul Anwar, Adrianus Jebatu, and Surya Adiptura, 2017, Authoritarian State, Developmental Model and Social Welfare: A Comparative Analysis of Indonesia, Singapore and Malaysia, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.10.
130. \*5 Sudjatmiko, Iwan Gardono, Indera Ratna Irawati Pattinasarany, Lidya Triana Aly, Roy Ferdy Gunawan, Tiara Wahyuningtyas, and Rangga Ardan Rahim, 2017, Social Welfare Policy, Socioeconomic Development, and Social Well-being: A Comparative Analysis of Indonesia, Malaysia, Thailand, The Philippines and Vietnam, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.
131. \*7 Sudjatmiko, Iwan Gardono, Roy Ferdy Gunawan, Lidya Triana Aly, Tiara Wahyuningtyas, and Rangga Ardan Rahim, 2018, Region and Social Well-being (A Comparison of Japan and Korea with Thailand and Indonesia), 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
132. \*8 Sudjatmiko, Iwan Gardono, Roy Ferdy Gunawan, Tiara Wahyuningtyas, and Rangga Ardan Rahim, 2018, New Means for Achieving Happiness: Haji Saving in East Javanese Moslems and Funeral Insurance in Balinese Hindu, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
133. \*6 Suleeman, Evelyn, 2018, The Image of Happy Family among Undergraduate Students, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
134. \*8 Suleeman, Evelyn, Daisy Indira Yasmine, Riena J. Suravuda, and Paulus Wirutomo, 2018, The Two Faces of Religion and Social Well-Being in Globalizing Indonesia, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
135. Sumi, Eiji, 2016, Subjective Well-being and Regional Characteristics, IPSA 24th World Congress of Political Science (International Political Science Association), Poznań (Poland), Poznań Congress Center, 2016.7.25. [査読有]
136. \*6 Sunarto, Kamanto, 2018, Academic Corruption and Quality Assurance Policies, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center,

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

2018.3.5.

137. Suzuki, Naomi, 2017, Subjective Happiness and Life Satisfaction among Japanese Family Caregivers , 19th ARAHE Biennial International Congress (Asian Regional Association for Home Economics), Tokyo (Japan), National Olympics Memorial Youth Center, 2017.8.7. [査読有]
138. Takikawa, Hiroki, Yusuke Inagaki, and Shinya Obayashi, 2018, Online Randomized Experiment on Social Influences upon Behaviors in Web Forums, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.16. [査読有]
139. Tanaka, Yasuhiro, Akihisa Kodate, and Timothy Bolt, 2018, Data Sharing System Based on Legal Risk Assessment, MISNC 2018 (Multidisciplinary International Social Networks Conference), St. Etienne (France), Jean Monnet University, 2018.7.17. [査読有]
140. \*3 Thuy, Nghiem Thi, 2016, Survey Design and Descriptive Outcomes of Vietnamese Survey, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
141. \*8 Thuy, Nghiem Thi, 2018, Social Well-Being and Inclusive Growth in Viet Nam, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
142. Tsai, Ming-Chang, 2018, Income and Subjective Well-Being in Japan: A Causal Mediation Analysis, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]
143. \*7 Tsai, Ming-Chang, 2018, Is Japan a Fair and Equal Society? Findings and Interpretations from a Public Opinion Approach , 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
144. Tsai, Ming-Chang, 2018, Social Indicators Movement and Human Agency: Some Updates from Local and Global Approaches, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.16. [査読有]
145. \*8 Tsai, Ming-Chang, 2018, Homogamy and Quality of Family Life: A Comparative Study of Asian Societies , 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
146. \*9 Tsai, Ming-Chang, 2018, When Economic Growth is Gone: The Pursuit of “Small Happiness” in Taiwan, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
147. \*7 Tsedendamba, Batsugar, Bold Tsevegdorj, Byambasuren Yadmaa, and Dashzeveg Lkhagvanorov, 2018, Understanding Nature of Social Wellbeing in Light of the Modernization, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
148. \*9 Tsedendamba, Batsugar, 2018, Addressing Poverty and Inequality: Social Well-Being Policies in Mongolia, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
149. \*6 Tsevegdorj, Bold, Dolgion Aldar, and Byambasuren Yadmaa, 2018, Understanding Subjective Well-being of the Poor in Post-Communist Mongolia, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University,

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.5.
150. \*8 Tsevegdorj, Bold, Byambasuren Yadmaa, and Dashzeveg Lkhagvanorov, 2018, The Findings from Mongolia's Subjective Well Being Survey 2017: Mining Sector Trust Level in Mongolian Gobi Region, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
151. \*8 Wang, Ying-Ting, 2018, Coresidence and Happiness of Single Adluts in Taiwan, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
152. \*3 Wirutomo, Paulus, 2016, Social Well-being: A Sociological Perspective, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
153. \*4 Wirutomo, Paulus, Daisy Indira Jasmine, and Riena J. Surayuda, 2017, Social Well-being and Indonesian Mental Revolution, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.
154. \*6 Wirutomo, Paulus, Iwan Gardono Sudjatmiko, Francisia S.S.E. Seda, Lugina Setyawati, Evelyn Suleeman, Daisy Indira Yasmine, Yosef Hilarius Timu Pera, and Roy Ferdy Gunawan, 2018, 2017 SWB Survey in Indonesia, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
155. \*7 Wirutomo, Paulus, Evelyn Suleeman, Daisy Indira Yasmine, and Riena J. Surayuda, 2018, The Condition of Societal Well-Being: A Comparison between Indonesia and South Korea, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
156. \*9 Wirutomo, Paulus, 2018, Improving Social Well-Being through “Mental Revolution”, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
157. Wirutomo, Paulus, 2018, Searching for Societal Well-being in Jakarta City, Does city living makes us happy? International conference on the well-being and quality of life in the city, Seoul (Korea), The Seoul Institute, 2018.12.6. [招待講演]
158. Wun'gaeo, Surichai, Vithaya Kulsomboon, and Surangrut Jumnianpol, 2016, Social Well-being in Thailand and SWB in ASEAN Community, The First Camp Seminar of International Consortium for Social Well-being Studies, Yamanashi (Japan), Fuji-Yamanakako Seminar House of Senshu University, 2016.2.18.
159. \*3 Wun'gaeo, Surichai, 2016, Social Well-being Research and Policy in Thailand, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
160. \*5 Wun'gaeo, Surichai, and Surangrut Jumnianpol, 2017, Social Determinant of Well-being: A Case Study of Thailand, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.13.
161. \*6 Wun'gaeo, Surichai, 2018, Social Well-being and SDGs: Learning for Inclusive Policy-making in Southeast Asia, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies,

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
162. Wun'gaeo, Surichai, 2018, Social Well-Being and the Governance of SDG's in Thailand, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]
163. \*7 Wun'gaeo, Surichai, 2018, Inequality, Social Well-Being and the SDGs in Thailand and the Region, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
164. \*9 Wun'gaeo, Surichai, 2018, The Thai Soccer Team Rescue and the Social Well-Being Lens, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
165. Yamamoto, Koji, 2017, Estimating Effect of Change in Policy Preference on Change in Voting Intention Over Time: Micro-foundation for Theories of Parties' Move, EPSA 7th Annual Conference (European Political Science Association), Milan (Italy), Palazzo delle Stelline, 2017.6.23. [査読有]
166. \*5 Yamamoto, Koji, 2017, Search for Individual (and Collective) Evaluation on a Status of Society as an Outcome of Public Policy: Normative Criteria and Perceived Facts about Equality and Economic Growth, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
167. \*6 Yamamoto, Koji, 2018, Search for Collective Preference on Statuses of Society: Aggregating Individual Evaluations Based on Equality and Economic Growth, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
168. Yamamoto, Koji, 2018, Policy Preference Affected By Perceived Fact on Externality: Why Do People with Higher Socio-Economic Status Sometimes Prefer Stronger Income Equalization Policy?, XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), Toronto (Canada), Metro Toronto Convention Center, 2018.7.18. [査読有]
169. Yamamoto, Koji, 2018, Policy Preference and Perceived Fact on Externality: Why Do People with Higher Socio-economic Status Sometimes Prefer Stronger Income Equalization Policy?, 2018 ECPR General Conference, Hamburg (Germany). [査読有]
170. Yamamoto, Koji, 2018, Concrete and Whole-Picture Type Indices to Measure Policy Preference over Income Redistribution Policy: A Report from Japanese Nationwide Survey Data, Seminar at the Center for Positive Political Economy, Waseda University. [招待講演]
171. \*8 Yasmine, Daisy Indira, Riena J. Surayuda, Evelyn Suleeman, and Paulus Wirutomo, 2018, Structural Problems Faced by Local Community Organization in Improving Social Well-Being, 2018 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.23.
172. Yazaki, Keitaro, Masayuki Kanai, Hiroo Harada, Shunsuke Murakami, Takeko Iinuma, Katsumi Shimane, Yuichi Marumo, and Jun Oyane, 2016, Reports on SWB Japan Survey, The First Camp Seminar of International Consortium for Social Well-being Studies, Yamanashi (Japan), Fuji-Yamanakako Seminar House of Senshu University, 2016.2.18.
173. Yazaki, Keitaro, 2016, Basic descriptive statistics of Japan SWB survey and gender inequality, IPSA 24th World Congress of Political Science (International Political Science Association), Poznań (Poland), Poznań Congress Center, 2016.7.25. [査読有]

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

174. Yazaki, Keitaro, 2017, Dilemma between Family and Civil Society: How Trust Promotes Well-being?, ICAS 10 (International Convention of Asia Scholars), Chiangmai (Thailand), Chiang Mai International Exhibition and Convention Center, 2017.7.20.
175. \*5 Yazaki, Keitaro, 2017, Practical Issues in Data Processing of SWB Data, 2017 The Second Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Hanoi (Vietnam), Vietnam Academy of Social Sciences, 2017.10.12.
176. \*6 Yazaki, Keitaro, 2018, How Social Diversity Affects Individual Well-being?: Conflicting Effects of Social Curiosity and Community Activity, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
177. Yazaki, Keitaro, 2018, How Social Diversity Affects Individual Well-being: Conflicting Effects of Social Curiosity and Community Activity, 16th ISQOLS Annual Conference (International Society for Quality-of-Life Studies), Hong Kong (China), Hong Kong Polytechnic University, 2018.6.14. [査読有]
178. \*7 Yazaki, Keitaro, 2018, Sympathy or Tolerance?: Comparison of the Effect of Generalized Trust on Well-being in Asian Countries, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.30.
179. \*8 Yazaki, Keitaro, 2018, Strangers and Social Inclusion: A System-Theoretic Interpretation of Results from Social Well-being Survey, 2019 The Fifth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Ikuta Campus, 2018.11.24.
180. Yee, Jaeveol, 2016, Report on SWB Korea Survey, The First Camp Seminar of International Consortium for Social Well-being Studies, Yamanashi (Japan), Fuji-Yamanakako Seminar House of Senshu University, 2016.2.18.
181. \*3 Yee, Jaeveol, Hyun-Chin Lim, Eun-Young Nam, Do-Kyun Kim, and Ee-Sun Kim, 2016, Survey Design and Descriptive Outcomes of Korean Survey, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
182. \*4 Yee, Jaeveol, Hearan Koo, and Ee-Sun Kim, 2017, Comparative Study of Social Well-being in Japan, Korea, and Vietnam, 2017 The First Conference of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2017.3.9.
183. Yee, Jaeveol, 2017, Diagnosis of Korean Society and Prospect for Social Integration, 2017 Symposium for the Development of Civil Society and Social Integration, Seoul (Korea), 2017.3.31.
184. Yee, Jaeveol, 2017, Why Social Value became an Important Issue in Contemporary Society, 2017 Incheon Forum Plenary Session, Seoul (Korea), 2017.8.21.
185. Yee, Jaeveol, 2017, Why Social Wellbeing Matters: Searching for New Model among Society, Mind, and Health, 2017 Annual Meeting of Korean Sociological Association, Seoul (Korea), Seoul National University, 2017.10.26.
186. Yee, Jaeveol, 2017, Critical Transformation and Social Value, "Social Value: Institutionalization of Cooperation, Innovation, and Responsibility" Conference organized by Korea Sociological Association, Seoul (Korea), Seoul National University, 2017.11.9.
187. \*6 Yee, Jaeveol, In-Cheol Shin, Hearan Koo, and Sang-Hee Park, 2018, Dimensions of Social Well-being

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

- among Asian Countries: Personal, Relational, and Societal Aspects, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
188. \*7 Yee, Jaeyeol, 2018, Social Well-being, Development, and Multiple Modernities in Asia, 2018 The Fourth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Seoul (Korea), Seoul National University Asia Center, 2018.6.29.
189. Yee, Jaeyeol, 2018, Hyper-Networked Age and Social Innovation, N-Forum 2018, Seoul (Korea), Yonsei University, 2018.7.26. [招待講演]
190. Yee, Jaeyeol, 2018, The Importance of Social Value in the Age of Sustainability: Experience of Korea, Bangkok Forum 2018, Bangkok (Thailand), Chulalongkorn University, 2018.10.24. [招待講演]
191. Yee, Jaeyeol, 2018, System Failure and the Structure of Man-Made Disaster, Dasan Conference 2018, Seoul (Korea), Walker-Hill Hotel, 2018.11.21. [招待講演]
192. \*9 Yee, Jaeyeol, 2018, Beyond the Paradox of Affluence, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
193. \*6 Yeh, Hsiu-Jen, 2018, How Social Capital Counts in a Healthy Life: The Case of Taiwan, 2018 The Third Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies, Center for Social Well-Being Studies, Senshu University, Magelang (Indonesia), Plataran Heritage Hotel & Convention Center, 2018.3.4.
194. \*3 Yue, Yin, 2016, Conducting Large-Scale Survey Research in China: A Brief Introduction, as well as a pre-Report on the Preparation of SWB Survey in China, 2016 Symposium of International Consortium for Social Well-being Studies, Center for Social Well-being Studies, Senshu University, Kanagawa (Japan), Senshu University Satellite Campus, 2016.6.25.
195. 張 光雲, 2016, 日本職務犯罪防控, 刑法創新論壇第 9 回, 四川省 (中国), 四川省蜀鼎法律事務所, 2016.10.23. [査読有]
196. 張 光雲, 2017, 日本の実質解釈論と形式解釈論之争, 刑法創新論壇第 10 回, 四川省 (中国), 四川大学, 2017.5.25.
197. 張 光雲, 2017, 客観解釈論的淵源, 刑法創新論壇第 11 回, 四川省 (中国), 四川大学, 2017.7.6.
198. 飯沼 健子, 2016, ラオス民間部門開発における教育・研修の役割, 専修大学商学研究所主催 公開シンポジウム, 東京, 専修大学神田校舎, 2016.12.17.
199. 稲垣 佑典, 2018, 「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」を用いた幸福感と幸福観の日韓比較, 数理社会学会第 65 回大会, 東京, 成蹊大学, 2018.3.14.
200. 稲垣 佑典, 2018, 国際比較調査データを用いた「幸福観」の日韓比較, 統計数理研究所オープンハウス「データサイエンスが切り拓く、ひとと社会の未来」, 東京, 統計数理研究所, 2018.6.15.
201. 大崎 裕子, 2017, 一般的信頼は主観ウェル・ビーイングをどのように高めるか—媒介効果の検討—, 数理社会学会第 63 回大会, 大阪, 関西大学, 2017.3.14. [査読有]
202. 大崎 裕子, 2018, 一般的信頼の形成に関する規範的制度アプローチ: ミクロマクロ構造から見えるもの, 数理社会学会第 66 回大会, 福島, 会津大学, 2018.8.30. [学会賞受賞講演] [招待講演]
203. \*9 大竹 文雄, 2018, 相対所得、相対意識と幸福度, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
204. 大橋 英夫, 2016, 国際価値連鎖と日中経済関係, 中国共産党中央党校主催「持続可能な中日国家成長戦略学術交流会」, 北京 (中国), 中国共産党中央党校, 2016.10.14.



法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

205. 大矢根 淳, 2014, 原発防災体制の構造的欠陥を乗り越えようとする減災サイクル論は成り立つか?～「UPZ・30km 圏の避難(認知行動→生活)」をめぐって～, 地域社会学会第 39 回大会, 東京, 早稲田大学, 2014.5.11.
206. \*1 大矢根 淳, 2014, 災害からの復元力 (レジリエンス), 国際シンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.12.6.
207. 大矢根 淳, 2015, 「復興-防災」連関に参画する災害社会学の研究実践: 岩手県大槌町安渡町内会における津波防災計画づくりをめぐって, 日本社会学会第 2 回東日本大震災研究交流会, 東京, 明治学院大学, 2015.3.15.
208. 大矢根 淳, 2016, サステナブル(sustainable)な防災社会構築のための新基軸 ～コミュニティにおけるレジリエント(resilient)な取組事例をめぐって～, ベトナム社会科学院東北アジア研究所主催 日越国際シンポジウム, ハノイ (ベトナム), ベトナム社会科学院会議室, 2016.9.28. [査読有] [招待講演]
209. 大矢根 淳, 2017, 「復興」‘研究実践’についての地域社会学的問題構制, 専修大学社会学会研究会, 神奈川, 専修大学.
210. 大矢根 淳, 2018, 東京(東アジアの都市圏の一つとして)のゲートシティーその認識論的發展経緯と課題一, 第 3 回東アジア門戸都市政策フォーラム, 天津市 (中国), 天津社会科学院, 2018.9.6.
211. 小笠原 強・宮川 英一, 2015, 関東大震災と人災: 専修大学関東大震災史研究会の取り組みを中心に, 四川師範大学日本研究中心災後重建歴史社会学研討会, 四川省 (中国), 四川師範大学日本研究中心, 2015.10.29.
212. 金井 雅之, 2015, 領域別不公平感の規定メカニズム再考, 数理社会学会第 59 回大会, 福岡, 久留米大学, 2015.3.14. [査読有]
213. 金井 雅之, 2015, 主観的幸福度に対する橋渡し型・結束型社会関係資本の複合効果, 数理社会学会第 60 回大会, 大阪, 大阪経済大学, 2015.8.29. [査読有]
214. \*2 金井 雅之, 2015, ソーシャル・キャピタルとソーシャル・ウェルビーイング, シンポジウム『「幸福」をつくる政策』 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2015.11.28.
215. 金井 雅之, 2018, フィールド調査と地域文化・国際文化: サーベイデータの文脈依存性, 第 46 回日本行動計量学会, 東京, 慶應義塾大学, 2018.9.4.
216. 神原 理, 2014, 川崎市における市民のコミュニティ意識とソーシャルキャピタル, 日本公益学会 2014 年度研究大会, 東京, 専修大学, 2014.10.5. [査読有]
217. 神原 理, 2014, 川崎市における市民のコミュニティ意識—web 調査と自主防災組織への調査から—, 地域活性学会第 6 回研究大会, 北海道, 東京農業大学オホーツクキャンパス, 2014.7.5. [査読有]
218. \*1 神原 理, 2014, 川崎市における市民の地域意識とソーシャル・ウェルビーイング, 国際シンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.12.6.
219. 神原 理, 2017, コミュニティ意識や信頼にもとづく幸福度分析, 地域活性学会第 9 回研究大会, 島根, 島根県立大学, 2017.9.2. [査読有]
220. 幸野 保典・宮川 英一・中村 慎一郎, 2017, 営業税 (名) 課税標準申告書綴からみる川越地域経済の変容: 1917 年、1920 年、1924 年の営業税データの記述統計を中心に, 経営史学会関東部会大会, 東京, 法政大学, 2017.7.22.
221. \*2 小塩 隆士, 2015, ソーシャル・キャピタルと幸福度, シンポジウム『「幸福」をつくる政策』 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2015.11.28.
222. 小林 盾・Dolgion Aldar, 2018, 現代アジアのウェル・ビーイング格差—8 か国比較による規定メカニズム解明一, 数理社会学会第 66 回大会, 福島, 会津大学, 2018.8.31.
223. 嶋根 克己, 2016, 近代化する葬儀: ベトナムと日本の比較から, ベトナム社会科学院東北アジア研究所主催 日越国際シンポジウム, ハノイ (ベトナム), ベトナム社会科学院会議室, 2016.9.28. [査読有] [招待講演]

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

224. 徐 一睿, 2018, ユーラシア輸送インフラと日中協力の道, 国際アジア共同体学会 2018 年春季大会, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.6.24.
225. 徐 一睿, 2018, インフラ投資と日中協力, 一帯一路構想に基づく日中協力国際シンポジウム, 瀋陽市 (中国), 遼寧大学日本研究センター, 2018.9.8. [招待講演]
226. 徐 一睿, 2018, インフラ投資と日中協力, 一帯一路都市と地域発展日中シンポジウム, 瀋陽市 (中国), 遼寧外国語大学, 2018.9.10. [招待講演]
227. 徐 一睿, 2018, 10 年後の中国産業と中国財政, 現代中国学会全国大会, 東京, 早稲田大学, 2018.10.21.
228. 徐 一睿, 2018, 中国におけるインフラ整備の地域的進展 一帯一路政策がもたらす影響, 中国経済経営学会, 東京, 大東文化大学, 2018.11.25.
229. 徐 一睿, 2018, 環境政策決定と環境改善, 安徽生態与経済発展研究センターシンポジウム, 合肥市 (中国), 安徽大学, 2018.12.3. [招待講演]
230. 徐 一睿, 2018, 東北地域からみる一帯一路, 国際アジア共同体学会 2018 年年次大会, 東京, 明治大学, 2018.12.16.
231. \*2 白石 小百合, 2015, 幸福度をはかる, シンポジウム『幸福』をつくる政策 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2015.11.28.
232. 鈴木 奈穂美, 2017, 介護者の幸福度研究は介護者支援施策につながるのか, 経済統計学会第 61 回全国研究大会, 東京, 法政大学, 2017.9.12. [査読有]
233. 鷺見 英司, 2015, 地方財政健全化法による地方自治体の効率化効果に関する実証分析, 日本地方財政学会第 23 回大会, 神奈川, 関東学院大学, 2015.5.16. [査読有]
234. 鷺見 英司, 2015, 大地の芸術祭と人タープロペンシティスコアマッチング法によるソーシャルキャピタルへの効果検証一, 日本文化経済学会 2015 年度秋の講演会, 新潟, 新潟市トキメッセ, 2015.10.24. [招待講演]
235. 鷺見 英司, 2015, 首長選挙の財政運営への影響に関する実証分析, 日本公共選挙学会第 19 回全国大会, 千葉, 明海大学, 2015.11.21. [査読有]
236. \*2 鷺見 英司, 2015, 幸福度と地域要因, シンポジウム『幸福』をつくる政策 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2015.11.28.
237. 鷺見 英司, 2016, 主観的幸福度と所得格差, 社会政策学会ソーシャル・キャピタルワークショップ:「ソーシャル・キャピタル研究における異分野間の学際的知見の共有」, 東京, 日本大学 (法学部 10 号館), 2016.3.12.
238. 鷺見 英司, 2017, 地方自治体の将来負担と効率性に関する実証分析, 日本地方財政学会第 25 回大会, 東京, 和光大学, 2017.5.20. [査読有]
239. 田中 康裕・宮川 英一, 2014, 中国福建省福州市におけるソーシャル・キャピタルと僑郷, 政治社会学会第 5 回研究大会, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.11.2.
240. 田中 康裕, 2018, 社会データ利活用とプライバシー・個人情報保護における法的課題に関する検討, 日本世論調査協会 2018 年度研究大会, 東京, 同志社大学東京サテライトキャンパス, 2018.11.9.
241. 原田 博夫, 2014, 社会関係資本研究センターによる川崎市アンケート調査結果の説明, 川崎市自主防災組織総会, 神奈川, 川崎市総合福祉会館 (エポック中原), 2014.8.27.
242. 原田 博夫, 2014, セッション「アジアにおけるソーシャル・キャピタル/ウェルビーイング: 社会意識 (アンケート) 調査を通じて」コーディネーター (問題提起), 政治社会学会第 5 回研究大会, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.11.2.
243. \*1 原田 博夫, 2014, 問題提起, 国際シンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.12.6.
244. 原田 博夫, 2015, ワークショップ「ニューツーリズムの可能性—災害対応教育の実践と継承—」コーディネーター, 日本計画行政学会第 38 回大会, 愛知, 名古屋工業大学, 2015.9.19.

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

245. \*2 原田 博夫, 2015, 趣旨説明, シンポジウム『幸福』をつくる政策 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2015.11.28.
246. 原田 博夫・田中 康裕, 2016, アジアにおける幸福(生活満足)調査: 相対富裕度、性別、年齢別の視点から, 社会政策学会ソーシャル・キャピタルワークショップ: 「ソーシャル・キャピタル研究における異分野間の学際的知見の共有」, 東京, 日本大学(法学部 10 号館), 2016.3.12.
247. 原田 博夫, 2016, ワークショップ「ニューツーリズムにおける地域貢献の可能性」コーディネーター, 日本計画行政学会第 39 回大会, 兵庫, 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス, 2016.9.10.
248. 原田 博夫, 2017, 日韓の幸福感: アンケート調査「ライフスタイルと価値観」から, 統計研究会財政班・アジア成長研究所共催 コンファレンス, 福岡, 北九州市, 2017.1.20.
249. \*9 細田 満和子, 2018, ウェルビーイングの為のレッスン: ブータンにおける GNH を目指す教育哲学と実践を手がかりに, シンポジウム「アジアにおける『豊かさ』の新しい形」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2018.11.25.
250. 松澤 明美・堀越 栄子・山口 麻衣・鈴木 奈穂美, 2017, 在宅介護者へのアウトリーチ型支援による家族介護者への効果, 日本公衆衛生学会第 76 回大会, 鹿児島, かごしま県民交流センター, 2017.11.1. [査読有]
251. 丸茂 雄一, 2014, パス図解析から窺えるもの, 政治社会学会第 5 回研究大会, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.11.2.
252. \*1 丸茂 雄一, 2014, パス図解析から窺えるもの, 国際シンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.12.6.
253. 宮川 英一, 2016, 「四川大地震」に関する日本語文献: 制度展開と住宅再建に関する研究を中心に, 四川師範大学日本研究中心災後重建歴史社会学研討会, 四川省(中国), 四川師範大学日本研究中心, 2016.11.3.
254. 宮川 英一, 2017, 災害からの「中長期復興」と周年事業: 関東大震災の事例を中心に, 四川師範大学日本研究中心災後重建歴史社会学研討会, 四川省(中国), 四川師範大学日本研究中心, 2017.11.2.
255. 宮川 英一, 2018, 日本における「四川大地震」への関心と研究文献: 近三年の動向を中心に, 四川師範大学日本研究中心災後重建歴史社会学研討会, 四川省(中国), 四川師範大学日本研究中心, 2018.11.8.
256. 宮下 量久・鷺見 英司, 2015, 地方交付税の合併算定替と合併自治体の効率性に関するパネル・データ分析, 日本財政学会第 72 回大会, 東京, 中央大学, 2015.10.17. [査読有]
257. 宮下 量久・鷺見 英司, 2016, 地方交付税の合併算定替と合併自治体の効率性に関するパネル・データ分析, 日本地方財政学会第 24 回大会, 静岡, 静岡大学, 2016.5.22. [査読有]
258. 宮下 量久・鷺見 英司, 2016, 自治体合併前の積立金に関する実証分析, 日本財政学会第 73 回大会, 京都, 京都産業大学, 2016.10.22. [査読有]
259. 宮下 量久・鷺見 英司, 2017, 財政調整基口の決定要因に関する実証分析, 日本計画行政学会第 40 回大会, 東京, 青山学院大学, 2017.9.9. [査読有]
260. 村上 俊介, 2014, インドシナ半島の人々の生活意識, 政治社会学会第 5 回研究大会, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.11.2.
261. \*1 村上 俊介, 2014, 東南アジア諸国における社会関係資本, 国際シンポジウム「ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展」 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2014.12.6.
262. 村上 俊介, 2016, 日本におけるベトナム研究の視座の変遷, ベトナム社会科学院東北アジア研究所主催 日越国際シンポジウム, ハノイ(ベトナム), ベトナム社会科学院会議室, 2016.9.28. [査読有] [招待講演]
263. \*2 矢崎 慶太郎, 2015, 日本調査の概要と主な知見, シンポジウム『幸福』をつくる政策 専修大学社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター, 東京, 専修大学神田校舎, 2015.11.28.
264. 矢崎 慶太郎, 2016, ジェンダーギャップと幸福度: 労働時間と家事労働の比較から, 社会政策学会ソシヤ

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

<p>ル・キャピタルワークショップ：「ソーシャル・キャピタル研究における異分野間の学際的知見の共有」，東京，日本大学（法学部 10 号館），2016.3.12.</p> <p>265. 矢崎 慶太郎, 2017, 社会的多様性が主観的幸福に結びつく条件： コミュニティか社会的関心か, 第 90 回日本社会学会大会, 東京, 東京大学, 2017.11.4. [査読有]</p> <p>266. 山本 耕資, 2015, 平等化政策志向の計測——具体的な程度を尋ねる調査項目の開発, 数理社会学会第 59 回大会, 福岡, 久留米大学, 2015.3.14. [査読有]</p> <p>267. 山本 耕資, 2015, 政策選好を形成する価値判断基準と事実認識—なぜ時に大学進学者はより強い平等化政策を望むのか, 数理社会学会第 60 回大会, 大阪, 大阪経済大学, 2015.8.29. [査読有]</p> <p>268. 山本 耕資, 2016, 連続型所得分布での近似による政策選好の把握—所得変換関数と最低所得水準, 数理社会学会第 61 回大会, 東京, 上智大学, 2016.3.18. [査読有]</p> <p>269. 山本 耕資, 2016, 所得平等化政策に関する選好の計測と分析, 日本応用数理学会第 51 回数理政治学研究部会, 東京, 政策研究大学院大学, 2016.12.9. [招待講演]</p> <p>270. 山本 耕資, 2019, ウェブ調査の ISCO 職業大分類コーディング：専修大学 SWB 日本調査データでの作業報告, 数理社会学会, 立命館大学. [査読有]</p>
---

## <研究成果の公開状況> (上記以外)

<p>シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等</p> <p>&lt;既に実施しているもの&gt;</p> <p>I. シンポジウム・コンファレンス・セミナー (シンポジウムポスターは別紙 1 参照)</p> <p>【平成 26 年度】</p> <p>■第 1 回シンポジウム</p> <p>テーマ：ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展</p> <p>Social Well-being and Economic Development</p> <p>日時 平成 26 年 12 月 6 日 (土) 14:00 - 17:30</p> <p>場所 専修大学神田キャンパス 7 号館 731 教室 (参加者 41 名)</p> <p>内容 <u>問題提起</u></p> <p>原田博夫(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)</p> <p><u>基調講演：“Well-being and the shadow economy”</u></p> <p>Friedrich Schneider</p> <p>(オーストリア国 Johannes Kepler University of Linz・教授)</p> <p><u>「東南アジア諸国における社会関係資本」</u></p> <p>村上俊介(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・経済学部教授)</p> <p><u>「川崎市における市民の地域意識とソーシャル・ウェルビーイング」</u></p> <p>神原理(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・商学部教授)</p> <p><u>「災害からの復元力 (レジリエンス)」</u></p> <p>大矢根淳</p> <p>(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)</p> <p><u>「パス図解析から窺えるもの」</u></p> <p>丸茂雄一</p> <p>(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・専修大学兼任講師)</p> <p><u>質疑応答</u></p> <p>司会・進行：金井雅之</p> <p>(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)</p> <p>【平成 27 年度】</p> <p>■第 2 回シンポジウム</p> <p>テーマ：「幸福」をつくる政策</p> <p>日時 平成 27 年 11 月 28 日 (土) 12:30 - 17:40</p> <p>場所 専修大学神田キャンパス 7 号館 731 教室 (参加者 50 名)</p>
--

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

内容 シンポジウムの趣旨と問題提起  
 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
基調講演：「ソーシャル・キャピタルと幸福度」  
 小塩隆士 (一橋大学経済研究所・教授)  
基調講演：「幸福度をはかる」  
 白石小百合 (横浜市立大学国際総合科学部・教授)  
研究報告：「日本調査の概要と主な知見」  
 矢崎慶太郎 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター・ポスト・ドクター)  
研究報告：「ソーシャル・キャピタルとソーシャル・ウェルビーイング」  
 金井雅之  
 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  
研究報告：「幸福度と地域要因」  
 鷺見英司  
 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・新潟大学准教授)  
パネル・ディスカッション  
 総合司会：嶋根克己  
 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)

### ■プロジェクトセミナー

日程 平成 28 年 2 月 17 日 (水) ～ 2 月 19 日 (金)  
 場所 専修大学富士山中湖セミナーハウス  
 参加者 Jaeyeol Yee, Dang Nguyen Anh, Surichai Wun'gaeo, Vithaya Kulsomboon,  
 Surangrut Jumnianpol, Emma Porio, Paulus Wirutomo, Iwan Gardono Sudjatmiko,  
 原田博夫、飯沼健子、稲田十一、金井雅之、丸茂雄一、村上俊介、大矢根淳、嶋根克己、  
 徐一睿、田中康裕、宮川英一、矢崎慶太郎

### 【平成 28 年度】

#### ■第 3 回シンポジウム

テーマ：アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング—アンケート調査を踏まえて—  
Social Well-being in Asia: Empirical Evidences and Theoretical Perspectives  
 日時 平成 28 年 6 月 25 日 (土) 9:30 - 17:00  
 場所 専修大学サテライトキャンパス (スタジオ A / 参加者 31 名)  
 内容 開会の挨拶  
 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
「日本・韓国・ベトナム調査」  
 金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  
 田中康裕 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・専修大学兼任講師)  
 Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)  
 Hearan Koo (ソウル国立大学)  
 Ee-Sun Kim (ソウル国立大学)  
 Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院)  
 Nghiem Thi Thuy (ベトナム社会科学院)  
  
「アジア各国のソーシャル・ウェルビーイング研究」  
 Emma Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)  
 Surichai Wun'gaeo (チュラロンコン大学)  
 Paulus Wirutomo (インドネシア大学)  
 Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学)  
 Yin Yue (上海財經大学)  
パネルディスカッション  
閉会の挨拶  
 Surichai Wun'gaeo (チュラロンコン大学)

#### ■第 1 回国際コンファレンス

テーマ：ソーシャル・ウェルビーイングとアジアにおける持続可能な開発目標

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

日時	Social Well-being and Sustainable Development Goals in Asia 平成 29 年 3 月 9 日 (木) 9:00 – 17:00 平成 29 年 3 月 10 日 (金) 9:00 – 16:30
場所	タイ・チュラロンコン大学 [参加者：3/9 (木) 48 名、3/10 (金) 128 名]
内容	<p><b>【3 月 9 日 (木)】</b></p> <p><u>Opening Remarks</u> Prapart Pintobtang (チュラロンコン大学)  <u>Reports on 2016 Social Well-being Survey in Thailand</u>  Surangrut Jumnianpol (チュラロンコン大学)  <u>Social Well-being in the Philippines: Indicators and Patterns</u>  Emma Porio, Justin Charles G. See (アテネオ・デ・マニラ大学)  <u>Quantitative Analyses of SWB Surveys in Japan, Korea, and Vietnam</u>  Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)  Seokho KIM (ソウル国立大学)  飯沼健子 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・経済学部教授)  <u>Social Well-being and SDGs in Southeast Asia</u>  Francisia SSE Seda (インドネシア大学)  稲田十一 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・経済学部教授)  Paulus Wirutomo (インドネシア大学)  Daisy Indira Jasmine (インドネシア大学)  Riena Julianisa (インドネシア大学)  <u>Closing Remark</u>  原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)</p> <p><b>【3 月 10 日 (金)】</b></p> <p><u>Opening Remarks</u> Bundhit Eua-arporn (チュラロンコン大学)  <u>Keynote Address I: From SDGs to Social Wellbeing: Policy-Knowledge Linkages</u>  Hans van Willenswaard (School for Wellbeing Studies and Research)  <u>Keynote Address II: (video)</u>  吉野直行 (アジア開発銀行研究所所長, 慶應義塾大学名誉教授)  <u>SDGs and Well-being in East and Southeast Asia: Engaging Stakeholders</u>  Emma Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)  Iwan Gardono Sudjarmiko (インドネシア大学)  Ganda Upaya (インドネシア大学)  Indera Pattinasarany (インドネシア大学)  Jauharul Anwar (インドネシア大学)  Adrianus Jebatu (インドネシア大学)  Surya Adiputra (インドネシア大学)  Marco Roncarati (Social Development Division, UNESCAP)  Victor Karunan (UNICEF Malaysia)  <u>Keynote Address III: From Wealth to Well-being: Economics as if Life Mattered</u>  Apichai Puntasen (Rangsit University and Thailand Rural Reconstruction Movement:  Foundation under Royal Patronage)  <u>Well-being and SDGs, Death and Well-being: Connections and linkages</u>  嶋根克己 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  Pavika Sriratanaban (チュラロンコン大学)  Narumon Hinshiranan (チュラロンコン大学)  <u>Social Well-being and Multi-level Learning in East and Southeast Asia</u>  原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  Surichai Wun'gao (チュラロンコン大学)  <u>Closing Remark</u>  Amara Pongsapich (チュラロンコン大学)</p>

【平成 29 年度】

■第 2 回国際コンファレンス

テーマ：地域統合の流れの中でのソーシャル・ウェルビーイング—ASEAN モデルを目指して—

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

	<p>Social Well-being in the Context of Regional Integration: Searching for a Joint ASEAN Model</p>
日時	平成 29 年 10 月 12 日 (木) 8:30 – 16:00 平成 29 年 10 月 13 日 (金) 8:30 – 17:00
場所	ベトナム・ベトナム社会科学院 [参加者：10/12 (木) 28 名、10/13 (金) 90 名]
内容	<p>【10 月 12 日 (木)】</p> <p><u>Welcome Remarks</u> Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院) 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)</p> <p><u>Session 1. Evaluation of Societies and Well-being</u> Hearan Koo (ソウル国立大学) Yi-fu Chen (国立臺北大學) 山本耕資 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・Hylab LLP)</p> <p><u>Session 2. Structure of Happiness and Relative Comparisons</u> 小林盾 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・成蹊大学教授) 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授) 金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)</p> <p><u>Special Session 1. Harmonizing SWB Data for Publication</u> In Chol SHIN (ソウル国立大学) Jaeyeol Yee (ソウル国立大学) 矢崎慶太郎 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター・ポスト・ドクター)</p> <p><u>Special Session 2. Well-being Surveys in Mongolia</u> Dolgion Aldar (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)</p> <p>【10 月 13 日 (金)】</p> <p><u>Opening Remarks</u> Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院) 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)</p> <p><u>Video Shows</u> 吉野直行 (アジア開発銀行研究所所長、慶應義塾大学名誉教授) 吉原毅 (城南信用金庫)</p> <p><u>Session 1. Regional Integration, Social Welfare, and Social Well-being</u> Surichai Wun'gao (チュラロンコン大学) Surangrut Jumnianpol (チュラロンコン大学) Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学) Indera Ratna Irawati Pattinasarany (インドネシア大学) Lidya Triana Aly (インドネシア大学) Roy Ferdy (インドネシア大学) Gunawan (インドネシア大学) Tiara Wahyuningtyas (インドネシア大学) Rangga Ardan Rahim (インドネシア大学) Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院)</p> <p><u>Session 2. Development Models and Regional Integration in ASEAN</u> 稲田十一 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・経済学部教授) Le Kim Sa (ベトナム社会科学院) 飯沼健子 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・経済学部教授)</p> <p><u>Session 3. Transformation in Southeast and East Asian Societies</u> 村上俊介 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・経済学部教授) Francisia SSE Seda (インドネシア大学) Lugina Setyawati (インドネシア大学) Yosef Hilarius Timu Pera (インドネシア大学) Rika Febriani (インドネシア大学) Pebriansyah (インドネシア大学) 嶋根克己 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授) 金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)</p>

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Closing Remark & Invitation to the next Conference

Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院)

Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学)

■第3回国際コンファレンス

テーマ：ソーシャル・ウェルビーイング、社会政策と社会変動

Social Well-Being, Social Policy, and Social Transformation

日時 平成30年3月4日(日) 9:00-17:00

平成30年3月5日(月) 9:00-17:00

場所 インドネシア・マグララン プラタラン ヘリテージ・コンベンションセンター

[参加者：3/4(日)27名、3/5(月)40名]

内容【3月4日(日)】

Opening Remark

Paulus Wirutomo (インドネシア大学)

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)

吉野直行 (アジア開発銀行研究所所長、慶応大学名誉教授)

Special Session: Social Well-being Survey in Indonesia

Paulus Wirutomo (インドネシア大学)

Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学)

Francisia SSSE Seda (インドネシア大学)

Lugina Setyawati (インドネシア大学)

Evelyn Suleeman (インドネシア大学)

Daisy Indira Yasmine (インドネシア大学)

Yosef Hilarius Timu Pera (インドネシア大学)

Roy Ferdy Gunawan (インドネシア大学)

Session 1: Social Capital and Social Exclusion

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)

鷺見英司 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・新潟大学准教授)

矢崎慶太郎 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター・ポスト・ドクター)

Emma Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)

Justin See (アテネオ・デ・マニラ大学)

Session 2: Social Network and Measurement

Hsiu-Jen Yeh (国立中正大学)

山本耕資 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・Hylab LLP)

Session 3: Structure of Social Well-Being

大崎裕子

(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・人間科学部兼任講師)

Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)

In-Cheol Shin (ソウル国立大学)

Hearan Koo (ソウル国立大学)

Sang-Hee Park (ソウル国立大学)

Surichai Wun'gao (チュラロンコン大学)

【3月5日(月)】

Plenary Session

Paulus Wirutomo (インドネシア大学)

Wiwin Widi (BAPPEDA Central Java)

Parallel Session 4a: Family in Transition

嶋根克己 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)

Evelyn Suleeman (インドネシア大学)

Parallel Session 4b: Development and Well-Being

Sulastri Sardjo (インドネシア大学)

Ricardi S. Adnan (インドネシア大学)

Parallel Session 5a: Well-Being of Children

Raphaella Dewantari Dwianto (インドネシア大学)

Endry Fatimaningsih (インドネシア大学)



法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Parallel Session 5b: Corruption, Democracy, and Support Networks

Kamanto Sunarto (インドネシア大学)  
 Robert M. Z. Lawang (インドネシア大学)  
 Seokho Kim (ソウル国立大学)

Session 6: Happiness in Indonesia

小林盾 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・成蹊大学教授)  
 Indera Ratna Irawati Pattinasarany (インドネシア大学)

Session 7: Social Inclusion and Social Well-Being

金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  
 Bold Tsevegdorj (Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Dolgion Aldar (Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Byambasuren Yadmaa (Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)

Closing Remarks and Invitation to the next Conference

Paulus Wirutomo (インドネシア大学)  
 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
 Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)

【平成 30 年度】

■第 4 回国際コンファレンス

テーマ: アジア的文脈におけるソーシャル・ウェルビーイング: 比較の視点から

Social Well-Being in the Asian Context: From a Comparative Perspective

日時 平成 30 年 6 月 29 日 (金) 9:00 – 17:15

平成 30 年 6 月 30 日 (土) 9:00 – 16:10

場所 ソウル国立大学・アジア研究所

[参加者: 6/29 (金) 54 名、6/30 (土) 52 名]

内容【6 月 29 日 (金)】

Opening Remarks

SooJin Park (ソウル国立大学)  
 Hyun-Chin Lim (ソウル国立大学)  
 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)

Session 1. Social Transformation and Social Well-Being

Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)  
 Batsugar Tsendendamba (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Bold Tsevegdorj (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Byambasuren Yadmaa (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Dashzeveg Lkhagvanorov (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Surichai Wun'gao (チュラロンコン大学)

Session 2. Detecting Social Well-Being in Asia

Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学)  
 Roy Ferdy Gunawan (インドネシア大学)  
 Lidya Triana Aly (インドネシア大学)  
 Tiara Wahyuningtias (インドネシア大学)  
 Rangga Ardan Rahim (インドネシア大学)  
 Francisia SSSE Seda (インドネシア大学)  
 Lugina Setyawati Setiono (インドネシア大学)  
 Yosef Hilarius Timu Pera (インドネシア大学)  
 Rika Febriani (インドネシア大学)  
 Kevin Nobel Kurniawan (インドネシア大学)  
 Muhammad R. Damm (インドネシア大学)  
 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
 鷺見英司 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・新潟大学准教授)

Session 3. Fairness, Inequality, and Well-Being

金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  
 Yi-fu Chen (國立臺北大學)  
 小林盾 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・成蹊大学教授)  
 Dolgion Aldar (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Ming Chang Tsai (台湾中央研究院)

**Session 4. From Knowledge to Policy**

Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院)  
 Emma Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)  
 Justin See (ラ・トローブ大学)  
 Arjay Dineros (アテネオ・デ・マニラ大学)  
 Hearan Koo (ソウル国立大学)  
 Dong-Kyun Im (ソウル市立大学校)  
 Sang-Hee Park (ソウル国立大学)

【6月30日(土)】

**Session 5. Death, Fear, Suicide, and Well-Being**

嶋根克己 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  
 芝井清久 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・  
 情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会ネットワーク構造化センター 特任助教)  
 Fadlan Khaerul Anam (インドネシア大学)

**Session 6. Social Capital and Well-Being**

矢崎慶太郎 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター・ポスト・ドクター)  
 大崎裕子 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・  
 東京大学社会科学研究所 特任助教)  
 Seok-ho Kim (ソウル国立大学)

**Session 7. Context Matters: Linking Micro and Macro**

Paulus Wirutomo (インドネシア大学)  
 Evelyn Suleeman (インドネシア大学)  
 Daisy Indira Yasmine (インドネシア大学)  
 Riena J. Surayuda (インドネシア大学)  
 Indera Ratna Irawati Pattinasarany (インドネシア大学)  
 Yow-Suen Sen (國立臺北大學)

**Closing Remarks and Invitation to Tokyo Conference**

Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)  
 原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)

■第5回国際コンファレンス・平成30年度シンポジウム

テーマ：アジアにおける「豊かさ」の新しい形—ソーシャル・ウェルビーイングに着目して—

**Balancing the Outcomes of Globalization: Roles of Social Well-Being**

日時 平成30年11月23日(金) 9:30-17:00  
 平成30年11月24日(土) 9:00-17:00  
 平成30年11月25日(日) 10:00-18:00

場所 専修大学 生田校舎3号館7階 蒼翼の間  
 神田校舎7号館3階 731教室

[参加者：11/23(金)43名、11/24(土)35名、11/25(日)73名]

内容【11月23日(金)】アカデミック ミーティング

**Opening Remarks**

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
 佐々木重人 (専修大学・学長)

**Session 1: Economic Growth and Inequality**

小林盾 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・成蹊大学教授)  
 Dolgion Aldar (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Indera Ratna Irawati Pattinasarany (インドネシア大学)  
 Nghiem Thi Thuy (ベトナム社会科学院)

**Session 2: Regional and Intergenerational Inequality**

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
 鷺見英司 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター客員研究員・新潟大学准教授)  
 Emma Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)  
 Noralene Uy (アテネオ・デ・マニラ大学)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Surangrut Jumnianpol (チュラロンコン大学)  
 Montakarn Chimmamee (チュラロンコン大学)  
 Surichai Wun'gao (チュラロンコン大学)

Session 3: Trust, Community, and Social Capital

Bold Tsevegdorj (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Byambasuren Yadmaa (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Dashzeveg Lkhagvanorov (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
 Daisy Indira Yasmine (インドネシア大学)  
 Riena J. Surayuda (インドネシア大学)  
 Evelyn Suleeman (インドネシア大学)  
 Paulus Wirutomo (インドネシア大学)  
 Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学)  
 Roy Ferdy Gunawan (インドネシア大学)  
 Tiara Wahyuningtyas (インドネシア大学)  
 Rangga Ardan Rahim (インドネシア大学)

【11月24日(土)】アカデミック ミーティング

Session 4: New Perspectives for Well-Being Studies

矢崎慶太郎 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター・ポスト・ドクター)  
 Dong-Kyun Im (ソウル大学)

Session 5: Life Style and Family

Ying-Ting Wang (元智大学)  
 Ming-Chang Tsai (台湾中央研究院)

Session 6: Religion and Well-Being in Comparative Perspectives

金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)  
 Fadlan Khaerul Anam (インドネシア大学)

Session 7: Social Function of Religion

Evelyn Suleeman (インドネシア大学)  
 Daisy Indira Yasmine (インドネシア大学)  
 Riena J. Surayuda (インドネシア大学)  
 Paulus Wirutomo (インドネシア大学)  
 Francisia Seda (インドネシア大学)  
 Lugina Styawati Setiono (インドネシア大学)  
 Yosef Hilarius Timu Pera (インドネシア大学)  
 Muhammad Damm (インドネシア大学)  
 Kevin Nobel Kurniawan (インドネシア大学)

Closing Remark & Invitation to the 2019 Conference in Taipei

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
 Ming-Chang Tsai (台湾中央研究院)

【11月25日(日)】シンポジウム

開会挨拶

原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
 日高義博 (学校法人専修大学理事長・名誉教授)

基調講演 1 「相対所得、相対意識と幸福度」

大竹文雄 (大阪大学大学院経済学研究科・教授)

基調講演 2 「ウェルビーイングの為のレッスン：ブータンにおける GNH を目指す  
 教育哲学と実践を手がかりに」

細田満和子 (星槎大学副学長・教授)

発表 1：東南アジア諸国におけるソーシャル・ウェルビーイングの役割

Surichai Wun'gao (チュラロンコン大学)  
 Emma Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)  
 Dang Nguyen Anh (ベトナム社会科学院)  
 Paulus Wirutomo (インドネシア大学)

発表 2：北東アジア諸国におけるソーシャル・ウェルビーイングの役割

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

Jaeyeol Yee (ソウル国立大学)  
Ming-Chang Tsai (台湾中央研究院)  
Batsugar Tsedendamba (the Independent Research Institute of Mongolia; IRIM)  
パネルディスカッション  
閉会挨拶  
原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表・経済学部教授)  
司会：金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員・人間科学部教授)

## II. 刊行物 (別紙 2 参照)

### 【平成 26 年度】

- 「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」 第 1 号 平成 27 年 3 月・全 190 頁
- 「*The Senshu Social Well-being Review*」 No.1 平成 27 年 3 月・全 199 頁

### 【平成 27 年度】

- 「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」 第 2 号 平成 28 年 3 月・全 108 頁
- 「*The Senshu Social Well-being Review*」 No.2 平成 28 年 3 月・全 111 頁

### 【平成 28 年度】

- 「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」 第 3 号 平成 29 年 3 月・全 116 頁
- 「*The Senshu Social Well-being Review*」 No.3 平成 28 年 9 月・全 184 頁

### 【平成 29 年度】

- 「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」 第 4 号 平成 30 年 3 月・全 170 頁
- 「*The Senshu Social Well-being Review*」 No.4 平成 29 年 12 月・全 125 頁

### 【平成 30 年度】

- 「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」 第 5 号 平成 31 年 3 月・全 216 頁
- 「*The Senshu Social Well-being Review*」 No.5 平成 30 年 12 月・全 138 頁

## III. インターネットでの公開状況

【ソーシャル・ウェルビーイング研究センター URL】

<https://www.senshu-u.ac.jp/swb/>

<これから実施する予定のもの>

なし

## 14 その他の研究成果等

### 《研究会》

#### 【平成 26 年度】

##### ■ 第 1 回研究会

日時： 平成 26 年 8 月 8 日 (金) 13:30~16:00  
場所： 専修大学生田校舎 社会知性開発研究センター  
担当： 原田博夫  
出席者： 飯沼健子、金井雅之、神原理、嶋根克己、田中康裕、宮川英一  
内容： 社会意識 (アンケート) 調査の狙いと具体的な調査項目・事項の再設定に向けて：  
社会関係資本研究センターで実施済みのアンケート調査設問・項目 (日本語・英語・  
現地語) の突き合わせ・対応の確認

##### ■ 第 2 回研究会

日時： 平成 26 年 8 月 20 日 (水) 13:30~16:00

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

場所： 専修大学生田校舎 社会知性開発研究センター  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 飯沼健子、稲田十一、大橋英夫、大矢根淳、嶋根克己、丸茂雄一、  
 村上俊介、宮川英一  
 内容： 社会意識（アンケート）調査の狙いと具体的な調査項目・事項の再設定に向けて：  
 新たな項目の導入と削除項目洗い出し（第1回）

#### ■第3回研究会

日時： 平成26年9月19日（金）13:30～16:00  
 場所： 専修大学生田校舎 社会知性開発研究センター  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 稲田十一、大橋英夫、大矢根淳、丸茂雄一、村上俊介、宮川英一  
 内容： 社会意識（アンケート）調査の狙いと具体的な調査項目・事項の再設定に向けて：  
 新たな項目の導入と削除項目洗い出し（第2回）

#### ■第4回研究会

日時： 平成26年10月3日（金）14:30～17:00  
 場所： 専修大学生田校舎 6号館 612教室  
 講師： 金井雅之  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 飯沼健子、嶋根克己、村上俊介、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： ソーシャル・ウェルビーイング研究の課題

#### ■第5回研究会

日時： 平成26年10月17日（金）13:30～15:30  
 場所： 専修大学生田校舎 6号館 612教室  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 飯沼健子、大矢根淳、金井雅之、神原理、嶋根克己、鈴木奈穂美、  
 丸茂雄一、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： 調査票作成について

#### ■第6回研究会

日時： 平成26年11月14日（金）13:00～17:30  
 場所： 専修大学生田校舎 6号館 612教室  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 飯沼健子、大矢根淳、金井雅之、神原理、嶋根克己、鈴木奈穂美、  
 丸茂雄一、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： 調査票作成について

#### ■第7回研究会

日時： 平成26年11月19日（水）10:50～13:00  
 場所： 専修大学生田校舎 6号館 612教室  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 飯沼健子、大矢根淳、金井雅之、丸茂雄一、村上俊介、宮川英一、  
 矢崎慶太郎  
 内容： 調査票作成について

#### ■第8回研究会

日時： 平成27年1月7日（水）13:00～14:30  
 場所： 専修大学生田校舎 6号館 612教室  
 担当： 原田博夫  
 出席者： 金井雅之、嶋根克己、田中康裕、丸茂雄一、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： 調査票作成について

#### ■第9回研究会

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

日時： 平成 27 年 3 月 19 日 (木) 14 : 00～17 : 00  
 場所： 専修大学生田校舎 10 号館 ゼミ 105E  
 講師： 鷺見英司、金井雅之  
 出席者： 原田博夫、大橋英夫、村上俊介、神原理、大矢根淳、丸茂雄一、田中康裕、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： 鷺見英司氏の研究発表および金井研究員による調査結果の記述統計概要の発表

【平成 27 年度】

■第 10 回研究会

日時： 平成 27 年 5 月 14 日 (木) 10 : 45～12 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 6 号館 611 教室  
 講師： 原田博夫  
 出席者： 飯沼健子、大矢根淳、金井雅之、嶋根克己、丸茂雄一、田中康裕、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： 海外における調査準備の経過とデータの利用条件の設定

■第 11 回研究会

日時： 平成 27 年 6 月 19 日 (金) 15 : 00～17 : 00  
 場所： 専修大学生田校舎 10 号館 ゼミ 105V  
 講師： 矢澤修次郎 (一橋大学、成城大学・名誉教授)  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、飯沼健子、神原理、大矢根淳、嶋根克己、丸茂雄一、田中康裕、中村知子、矢崎慶太郎  
 内容： 「東アジア・東南アジアの社会学者とのネットワーキング」

■第 12 回研究会

日時： 平成 27 年 7 月 28 日 (火) 13 : 00～17 : 15  
 場所： 専修大学生田校舎 10 号館 ゼミ 105S  
 講師： 稲田十一、飯沼健子、中村知子、徐一睿  
 出席者： 原田博夫、大橋英夫、金井雅之、丸茂雄一、田中康裕、矢崎慶太郎  
 内容： アジア地域の社会状況についての研究報告

■第 13 回研究会

日時： 平成 27 年 12 月 4 日 (金) 13 : 00～15 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 10 号館 ゼミ 105K  
 講師： 山本耕資、大崎裕子  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、飯沼健子、丸茂雄一、嶋根克己、神原理、宮川英一、矢崎慶太郎  
 内容： 山本耕資「所得平等化政策に関する選好の計測と分析」  
 大崎裕子「現代社会における一般的信頼の規定要因と帰結」

【平成 28 年度】

■第 14 回研究会

日時： 平成 28 年 10 月 21 日 (金) 13 : 50～14 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 6 号館 612 教室  
 報告者： 金井雅之  
 出席者： 原田博夫、飯沼健子、大崎裕子、大矢根淳、金井雅之、神原理、嶋根克己、鈴木奈穂美、丸茂雄一、矢崎慶太郎  
 内容： 金井雅之 「SWB 日本調査のこれまでの分析の概要と今後の方向性」

■第 15 回研究会

日時： 平成 28 年 11 月 11 日 (金) 13 : 00～14 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 6 号館 612 教室  
 報告者： 神原理、鈴木奈穂美  
 出席者： 原田博夫、大矢根淳、金井雅之、神原理、嶋根克己、鈴木奈穂美、丸茂雄一、山本耕資、矢崎慶太郎  
 内容： 神原理 「SWB 日本調査 2015 の分析結果—地域生活と幸福度との関係から—」

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

鈴木奈穂美 「SWB 日本調査に見る介護者の主観的幸福度・満足度」

#### ■第 16 回研究会

日時： 平成 28 年 12 月 2 日（金）14：00～16：00  
 場所： 専修大学生田校舎 6 号館 612 教室  
 報告者： 嶋根克己、Steven Lim  
 出席者： 原田博夫、飯沼健子、金井雅之、嶋根克己、鈴木奈穂美、丸茂雄一、Steven Lim、矢崎慶太郎  
 内容： 嶋根克己 「死者のつながりとソーシャル・ウェルビーイング」  
 Steven Lim（経済学部、海外客員教授）  
 “Happiness & Older People: Reinterpreting Relative Income”

#### ■第 17 回研究会

日時： 平成 29 年 1 月 27 日（金）13：30～15：00  
 場所： 専修大学生田校舎 6 号館 623 教室  
 報告者： 大崎裕子、山本耕資  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、大崎裕子、山本耕資、矢崎慶太郎  
 内容： 大崎裕子 「信頼と生活満足の関係に関する国際比較」  
 山本耕資 「政策選好の分析：主観的幸福とソーシャル・ウェルビーイングをめぐって」

【平成 29 年度】

#### ■第 18 回研究会

日時： 平成 29 年 4 月 14 日（金）14：50～16：20  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 社会知性開発研究センター3  
 報告者： 嶋根克己  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、飯沼健子、丸茂雄一、鈴木奈穂美、矢崎慶太郎  
 内容： 嶋根克己 “The Social Bond with the Dead”

#### ■第 19 回研究会

日時： 平成 29 年 5 月 19 日（金）14：30～15：40  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 小林盾（成蹊大学）  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、飯沼健子、丸茂雄一、神原理、矢崎慶太郎  
 内容： 小林盾 「英語論文執筆のためのワークショップ」

#### ■第 20 回研究会

日時： 平成 29 年 5 月 26 日（金）14：00～15：40  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 丸茂雄一  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、飯沼健子、中村知子、矢崎慶太郎  
 内容： 丸茂雄一 「日本における収入格差の認知過程の可視化」

#### ■第 21 回研究会

日時： 平成 29 年 6 月 2 日（金）14：30～16：00  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 矢崎慶太郎  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、鈴木奈穂美、矢崎慶太郎  
 内容： 稲葉陽二・吉野諒三『ソーシャル・キャピタルの世界』輪読 第 6・7 章

#### ■第 22 回研究会

日時： 平成 29 年 6 月 16 日（金）14：30～16：00  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 矢崎慶太郎  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、飯沼健子、矢崎慶太郎  
 内容： 稲葉陽二・吉野諒三『ソーシャル・キャピタルの世界』輪読 第 8・9 章

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

#### ■第 23 回研究会

日時： 平成 29 年 6 月 23 日 (金) 14 : 30～16 : 00  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 鈴木奈穂美  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、鈴木奈穂美、大矢根淳、丸茂雄一、矢崎慶太郎  
 内容： 鈴木奈穂美 「介護者の満足度の決定要因：SWB 日本調査分析」

#### ■第 24 回研究会

日時： 平成 29 年 6 月 30 日 (金) 14 : 30～16 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 林伸一郎 (外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課・上席専門官)  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、稲田十一、丸茂雄一、中村知子、大崎裕子、矢崎慶太郎、土屋昌明  
 内容： 林伸一郎 「モンゴル社会における『裂け目』の現状」

#### ■第 25 回研究会

日時： 平成 29 年 7 月 14 日 (金) 14 : 30～16 : 00  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 335 教室  
 報告者： 飯沼健子  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、飯沼健子、鈴木奈穂美、丸茂雄一、大崎裕子、矢崎慶太郎  
 内容： 飯沼健子 “Gender Issues in Japan and Korea: at the Crossroads of Objective Well-being and Subjective Well-being”

#### ■第 26 回研究会

日時： 平成 29 年 7 月 28 日 (金) 16 : 00～17 : 50  
 場所： 専修大学神田校舎 7 号館 772 教室  
 報告者： 吉野諒三 (統計数理研究所)  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、飯沼健子、神原理、丸茂雄一、山本耕資、矢崎慶太郎  
 内容： 吉野諒三  
 「国際比較調査の知見の幾つか：各国の『世論調査の方法論』自体がその国の政治・経済・社会状況を映し出す」

#### ■第 27 回研究会

日時： 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 11 : 00～12 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 338 教室  
 報告者： 芝井清久、稲垣佑典 (ROIS-DS)  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、大矢根淳、鈴木奈穂美、丸茂雄一、矢崎慶太郎  
 内容： 芝井清久 「核不拡散体制における IAEA 査察制度の役割とその課題」  
 稲垣佑典 「Web 調査における Satisfice 回答行動の分析」

#### 【平成 30 年度】

#### ■第 28 回研究会

日時： 平成 30 年 10 月 19 日 (金) 13 : 00～14 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 337 教室  
 報告者： カローラ・ホメリヒ (北海道大学)  
 出席者： 原田博夫、金井雅之、嶋根克己、カローラ・ホメリヒ、飯沼健子、大矢根淳、神原理、丸茂雄一、小森田龍生  
 内容： カローラ・ホメリヒ  
 “Measuring Happiness: The Structure of Determinants and Possible Interpretations”

#### ■第 29 回研究会

日時： 平成 31 年 2 月 7 日 (木) 14 : 00～16 : 30  
 場所： 専修大学生田校舎 3 号館 社会知性開発研究センター3  
 報告者： Suk-Ki Kong (ソウル国立大学アジア研究所)



法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

出席者： 原田博夫、嶋根克己、神原理、稲田十一、矢崎慶太郎、長尾謙吉、博凱儀、三石博行、市川顕  
 内容： Suk-Ki Kong  
 “Mapping Out Korean Civil Society and its Engagement in Social Economy”

■第 30 回研究会

日時： 平成 31 年 3 月 18 日（月）15：00～17：00  
 場所： 専修大学生田校舎 2 号館 1 階 ラーニングスタジオ 211  
 報告者： 原田博夫  
 内容： 原田博夫  
 「中国・新常态研究を振り返り - 研究者・原田博夫はなぜアジア・中国研究にシフトしたのか」

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他( )	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	19,565	12,766	6,799	0	0	0	0
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	20,972	13,115	7,857	0	0	0	0
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	21,808	17,368	4,440	0	0	0	0
平成29年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	21,374	15,914	5,460	0	0	0	0
平成30年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	17,932	12,382	5,550	0	0	0	0
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	101,651	71,545	30,106	0	0	0	0
総計	101,651	71,545	30,106	0	0	0	0	

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

17 《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
社会知性開発研究センター事務課		93 m <sup>2</sup>	1	21 名			
社会知性開発研究センター2		24 m <sup>2</sup>	1	21 名			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

\_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。) (千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況 (千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,313	消耗品、コピー代等	1,313
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	85	郵送料等	85
印 刷 製 本 費	1,832	印刷費等	1,832
旅 費 交 通 費	3,927	国内・海外出張等	3,927
賃 借 料	0		0
報 酬 ・ 委 託 料	5,758	委託・謝礼費等	5,758
準 備 品 費	567	OA機器等	567
諸 会 費	268	学会	268
雑 費	432	雑費等	432
計	14,182		14,182
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	6 1,584		6 1,584
教育研究経費支出	0		0
計	1,590		1,590
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,460		1,460
図 書	0		0
計	1,460		1,460
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,000		1,000
ポスト・ドクター	1,333		1,333
研究支援推進経費	0		0
計	2,333		2,333

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	949	消耗品、コピー代等	949
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	171	郵送料等	171
印 刷 製 本 費	1,135	印刷費等	1,135
旅 費 交 通 費	2,596	国内・海外出張等	2,596
賃 借 料	0		0
報 酬 ・ 委 託 料	9,351	委託・謝礼費等	9,351
準 備 品 費	273	OA機器等	273
諸 会 費	399	学会	399
雑 費	829	雑費等	829
計	15,703		15,703
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	14 3,040		14 3,040
教育研究経費支出	0		0
計	3,054		3,054
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	215		215
図 書	0		0
計	215		215
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	2,000		2,000
研究支援推進経費	0		0
計	2,000		2,000

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	310	消耗品、コピー代等	310
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	283	郵送料等	283
印 刷 製 本 費	1,548	印刷費等	1,548
旅 費 交 通 費	4,829	国内・海外出張等	4,829
賃 借 料	54	賃借料等	54
報 酬 ・ 委 託 料	9,230	委託・謝礼費等	9,230
準 備 品 費	0		0
諸 会 費	408	学会	408
雑 費	127	雑費等	127
計	16,789		16,789
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0 3,019		0 3,019
教育研究経費支出	0		0
計	3,019		3,019
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	2,000		2,000
研究支援推進経費	0		0
計	2,000		2,000

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491003

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	253	消耗品、コピー代等	253
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	112	郵送料等	112
印 刷 製 本 費	1,613	印刷費等	1,613
旅 費 交 通 費	4,674	国内・海外出張等	4,674
賃 借 料	318	賃借料等	318
報 酬・委 託 料	9,179	委託・謝礼費等	9,179
準 備 品 費	0		0
諸 会 費	432	学会	432
雑 費	47	雑費等	47
計	16,628		16,628
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	0 2,746		0 2,746
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	2,746		2,746
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	2,000		2,000
研究支援推進経費	0		0
計	2,000		2,000

年 度	平成 30 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	197	消耗品、コピー代等	197
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	223	郵送料等	223
印 刷 製 本 費	1,677	印刷費等	1,677
旅 費 交 通 費	7,998	国内・海外出張等	7,998
賃 借 料	0		0
報 酬・委 託 料	1,192	委託・謝礼費等	1,192
準 備 品 費	0		0
諸 会 費	348	学会	348
雑 費	979	雑費等	979
計	12,614		12,614
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	83 3,235		83 3,235
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	3,318		3,318
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	2,000		2,000
研究支援推進経費	0		0
計	2,000		2,000

【別紙1】シンポジウム・コンファレンスポスター

第1回シンポジウム

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成26年度～平成30年度）  
「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築」

平成26年度国際シンポジウム  
**ソーシャル・ウェルビーイングと経済発展**  
Social Well-being and Economic Development

日時 平成26年12月6日(土) 14:00～17:30  
会場 専修大学 神田キャンパス 7号館3階731教室



主催  
専修大学社会知性開発研究センター  
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター  
Center for Social Well-being Studies  
Devoted to the Development of Socio-Intelligence  
SENSHU UNIVERSITY

第2回シンポジウム

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成26年度～平成30年度）  
主催 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター  
後援 日本経済研究センター・星城大学  
「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築」

日時 2015年  
**11月28日(土)**  
12:30～17:40 受付12:00～

会場 専修大学 神田キャンパス 7号館3階731教室

「幸福」をつくる政策

第1部 基調講演  
12:30～12:50 シンポジウムの趣旨と開催経緯  
原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表/経済学専攻教授)  
白石小百合 (横浜国立大学経済学専攻教授)

12:50～13:35 ソーシャル・キャピタルと幸福度  
小堀隆士 (一橋大学経済学専攻教授)

13:35～14:20 幸福度をめぐる  
白石小百合 (横浜国立大学経済学専攻教授)

14:20～14:30 休憩

第2部 「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」  
日本調査の報告  
14:30～15:00 日本調査の概要と主な発見  
矢崎慶太郎 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター/ポスドク)

15:00～15:30 ソーシャル・キャピタルとソーシャル・ウェルビーイング  
金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター-専攻員/人間科学専攻教授)

15:30～16:00 幸福度と地域要因  
鷺見英司 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター-専攻員/経済学専攻教授)

16:00～16:10 休憩

第3部 パネル・ディスカッション：「幸福」をつくる政策  
16:10～17:40  
●モデレーター  
原田博夫 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表/経済学専攻教授)  
●パネリスト  
小堀隆士 (一橋大学経済学専攻教授)  
白石小百合 (横浜国立大学経済学専攻教授)  
金井雅之 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター-専攻員/人間科学専攻教授)  
鷺見英司 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター-専攻員/経済学専攻教授)

●総合司会  
嶋根克己 (ソーシャル・ウェルビーイング研究センター-専攻員/人間科学専攻教授)

申し込み・お問合せ  
電子メールまたはFAXで、件名を「11/28 SW研究センターシンポジウム」とし、①氏名(ふりがな) ②所属(所属) ③参加希望(希望) ④電話番号を明記の上、下記のメールアドレスに必ずお送りください。  
申込み締切：11月24日(火) ※定員超過等で調整できない場合がございます。

専修大学 社会知性開発研究センター事務局  
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区三田 2-1-1  
E-mail: socio@acc.senshu-u.ac.jp TEL:044-911-1347 FAX:044-911-1348

会場案内

第3回シンポジウム

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成26年度～平成30年度）  
主催：専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター  
「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築」  
平成28年度シンポジウム

**アジアにおける  
ソーシャル・ウェルビーイング  
アンケート調査を踏まえて**

日時：2016年6月25日(土) 9:30-17:00 (9:15～受付開始)  
会場：専修大学サテライトキャンパス  
神奈川県川崎市多摩区登戸2130-2 アトラスタワー向ヶ丘遊園2階

9:30-9:40 開会の挨拶  
原田博夫 (専修大学経済学部教授/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表)

9:40-13:50 Part 1：日本・韓国・ベトナム調査  
金井雅之 (専修大学人間科学部教授)・田中康裕 (専修大学人間科学部兼任講師)  
Jaeyool Yee, Hesaran Koo, Ee-Sun Kim (ソウル国立大学)  
Dang Nguyen Anh, Nghiem Thi Thuy (ベトナム社会科学院)

14:00-15:40 Part 2：アジア各国のソーシャル・ウェルビーイング研究  
Emmo Porio (アテネオ・デ・マニラ大学)  
Surichai Wuri' gaeo (チュラロンコン大学/平和・紛争研究所所長)  
Paulus Wirutomo, Iwan Gardono Sudjatmiko (インドネシア大学)  
Yin Yue (上海财经大学)

16:00-16:50 Part 3：パネルディスカッション  
16:50-17:00 閉会の挨拶  
Surichai Wuri' gaeo (チュラロンコン大学/平和・紛争研究所所長)

使用言語：英語 (通訳なし)

参加費無料。事前申込制(6月18日(土)まで)  
定員になり次第、受付を締め切ります。  
下記 URL のお申込みフォームをご利用ください。  
<https://s360.jp/forms/30448-2066/>

連絡先  
専修大学社会知性開発研究センター事務局  
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区三田2-1-1  
Tel:044-911-1347 Fax:044-911-1348 Mail: socio@acc.senshu-u.ac.jp  
URL <http://www.senshu-u.ac.jp/swb/>

小田急線「向ヶ丘遊園駅」北口下車  
向ヶ丘遊園駅(北口) 小田急線 徒歩1分  
2F入口 スーパー入口

第1回国際コンファレンス (通算第4回シンポジウム)

The 4<sup>th</sup> Conference of  
International Consortium for Social Well-being Studies

**SOCIAL WELL-BEING and SDGs in ASIA:  
A RESEARCH-POLICY AGENDA**

Themes:  
- From SDGs to Social Well-being:  
Policy-Knowledge Linkages  
- SDGs and Well-being in East and Southeast Asia:  
Engaging Stakeholders  
- From Wealth to Well-being and Finally Nibbana:  
A Transference from Traditional to Buddhist Economics  
- Well-being and SDGs, Death and Well-being:  
Connections and Linkages  
- Social Well-being and Multi-lateral Learning in East and Southeast Asia

Organized by  
Chulalongkorn University Social Research Institute (CUSRI)  
Center for Social Well-being Studies at Senshu University

Date: March 10, 2017  
Venue: Main Auditorium Room 801 (7th Floor)  
Chaloem Rajakumari 60 Building (Chamchuri 10),  
Chulalongkorn University

Information and Online registration:  
<http://www.cusri.chula.ac.th>  
<https://goo.gl/forms/XDCAQS5BLE4dEEin2>



【別紙1】シンポジウム・コンファレンスポスター

第2回国際コンファレンス

**SWB SYMPOSIUM**  
**Social Well-being in the Context of Regional Integration:**  
 Searching for a Joint ASEAN Model  
 October 12, 2017

Vietnam Academy of Social Sciences  
 Center for Social Well-being Studies, Senshu University

Vietnam Academy of Social Sciences,  
 Meeting Room 3D (Level 3), 1 Lieu Giai, Hanoi, Vietnam




Sessions 1,2: 20 min. presentation & 10 min. discussion for each paper  
 Special Sessions 1: 40 min. and 20 min. presentation & 15 min. discussion  
 Special Sessions 2: 40 min. presentation & 20 min. discussion

**8:30 - 8:45 Registration**  
**8:45 - 9:00 Welcome remarks**  
 Dang Nguyen Anh (Vietnam Academy of Social Science)  
 Hiroo Harada (Senshu University)


**9:00-10:30 Session 1: Evaluation of Societies and Well-being**  
**Chair: Masayuki Kanai (Senshu University)**  
 Do Perceived Ingredients of Success Matter for the Well-being of Society? An Empirical Investigation  
 Hyeon Koo (Seoul National University)  
 Social Unfairness and Life Satisfaction: The Findings from 2017 SWB Taiwan Survey  
 Yi-fu Chen (National Taipei University)

1

第3回国際コンファレンス



The Third Conference of  
 International Consortium for Social Well-Being Studies  
**Social Well-Being, Social Policy, and Social Transformation**



**Organizers**  
 Department of Sociology, Faculty of Social and Political Sciences, Universitas Indonesia  
 Center for Social Well-Being Studies, Senshu University

**Endorsement**  
 Asian Development Bank Institute  
 Japan Center for Economic Research  
 The Johnan Shinkin Bank  
 LabSosio, Department of Sociology, University of Indonesia

**Date**  
 March 4-5, 2018

**Venue**  
 Magelang, Plataran Hotel & Convention Center, Indonesia

1

第4回国際コンファレンス



4th Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies  
**Social Well-Being in the Asian Context:**  
 From a Comparative Perspective

June 29-30, 2018  
 Seoul National University Asia Center

**Organizers**  
 Seoul National University Asia Center & Center for Social Wellbeing Studies, Senshu University

**Endorsement**  
 Japan Center for Economic Research & The Johnan Shinkin Bank

**Day 1. June 29 (9:00-17:15)**

Opening remarks  
 Soolin Park (SNUAC director)  
 Hyun-Chin Lim (SNUAC founding director)  
 Hiroo Harada (Senshu University)

Session 1  
 Social transformation and social well-being  
 Session 2  
 Detecting social well-being in Asia  
 Session 3  
 Fairness, inequality, and well-being  
 Session 4  
 From knowledge to policy

**Day 2. June 30 (9:00-16:10)**

Session 5  
 Death, fear, and suicide and well-being  
 Session 6  
 Social capital and well-being  
 Session 7  
 Context matters: linking micro and macro

Business meeting  
 Chair: Masayuki Kanai (Senshu University)

Closing remarks and invitation to Tokyo conference  
 Jaeyeol Yee (SNU)  
 Hiroo Harada (Senshu University)



1

第5回国際コンファレンス・平成30年度シンポジウム



平成30年度 シンポジウム  
**アジアにおける「豊かさ」の新しい形**  
 —ソーシャル・ウェルビーイングに着目して—

**2018年11月25日(日)** 10:00~18:00(受付9:30~)  
 専修大学神田校舎 7号館 3階 731教室  
 後援: アジア太平洋社会学会、日本経済研究センター、城南信用金庫、慶応大学

**プログラム**

■ 午前の部 ■  
**開会挨拶** 原田 博夫(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター代表/専修大学経済学部教授)  
**基調講演 ①** 「絶対所得、相対意識と幸福度」 大竹 文雄(大阪大学大学院経済学研究科・教授)  
**基調講演 ②** 「ウェルビーイングの為のレッスン: プータンにおけるGNHを目指す教育哲学と実践を手がかりに」 船田 真和子(慶応大学副学長・教授)

■ 午後の部 ■  
**演説 ①** 東南アジア諸国におけるソーシャル・ウェルビーイングの役割  
 タイ・フィリピン・バトナム・インドネシア  
**演説 ②** 北東アジア諸国におけるソーシャル・ウェルビーイングの役割  
 韓国・台湾・モンゴル

**パネルディスカッション:** 豊かさのアジアモデルを目指して  
 発着司会 金井 善之(ソーシャル・ウェルビーイング研究センター研究員/専修大学人間学部教授)

**参加申込**  
 シンポジウムウェブサイトの「申込みフォーム」よりお申込みください。  
<https://www.senshu-u.ac.jp/cyepochi/form/pc/unit1000137.html>  
 締切: 11月20日(火)

**問い合わせ先**  
 専修大学社会知性開発研究センター事務局  
 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1  
 メールアドレス: socio@acc.senshu-u.ac.jp TEL: 044-911-1347



1

【別紙2】刊行物

日本語論集『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』

<No.1, 2015年3月>

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成26年度~平成30年度)

# ソーシャル・ウェルビーイング研究論集

第1号 (2015年3月)

**I 論文**

ソーシャル・ウェルビーイング研究の課題 金井雅之 ..... 7

川崎市民の地域意識と生活満足度 神原 理 ..... 23

中国における幸福度の研究状況 李 榮 ..... 39  
(訳: 宮川美一)

**II 研究ノート**

ウェルビーイングの指標としての芸術 矢崎慶太郎 ..... 51

翻訳資料: ジンメル「芸術展について」、ウェーバー「技術と文化について」  
共訳: 矢崎慶太郎 ..... 63  
中林 隼

**III 活動記録**

1. 2014年度活動報告 ..... 81

2. 国際シンポジウム (2014年12月) ..... 85

3. 研究会開催 ..... 179

4. 研究活動 (国内) ..... 182

5. 研究活動 (海外) ..... 184

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター員一覧 ..... 187

「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」諸規約 ..... 188

専修大学 専修大学社会知性開発研究センター  
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

ISBN : 978-4-9908234-0-5  
MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities (2014-2018)

# The Journal of Social Well-being Studies

No.1 (March 2015)

**I Articles**

A Review and Agenda for Social Well-being Research Masayuki Kanai ..... 7

Community Awareness and Life Satisfaction of Citizens in Kawasaki-City Satoshi Kambura ..... 23

Research Activities on Well-being in China Li Long ..... 39  
translator: Hidekazu Miyagawa

**II Research Notes**

Modern Art as a Measure of Well-being Keitaro Yazaki ..... 51  
Translation: G. Simmel "On Art Exhibitions", M. Weber  
translators: Keitaro Yazaki, Ren Nakabayashi ..... 63

**III Annual Report**

1. Annual Report 2014 ..... 81

2. International Symposium 2014 ..... 85

3. Records of Research Seminar ..... 179

4. Research Activities in Japan ..... 182

5. Research Activities on abroad ..... 184

List of Researchers ..... 187

Editorial Policy ..... 188

Center for Social Well-being Studies  
Institute for the Development of Social Intelligence  
SENSHU UNIVERSITY

<No.2, 2016年3月>

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成26年度~平成30年度)

# ソーシャル・ウェルビーイング研究論集

第2号 (2016年3月)

**I 論文**

「幸福」研究の意義と可能性 原田博夫 ..... 7

ソーシャル・キャピタルと幸福度: 理解をさらに深めるために 小塩隆士 ..... 19

幸福の経済学-現状と課題から次のステップへ 白石小百合、白石 賢 ..... 35

ベトナムにおけるソーシャル・セーフティネット (SSN) 稲田十一 ..... 55  
-「共同体的扶助制度」と「市場化の波」の南北比較-

**II 活動記録**

1. 2015年度活動報告 ..... 77

2. シンポジウム ..... 81

3. キャンプセミナー ..... 93

4. 研究会開催 ..... 96

5. 研究活動 (国内) ..... 98

6. 研究活動 (海外) ..... 100

7. 学術連携 ..... 103

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター員一覧 ..... 104

「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」諸規約 ..... 106

専修大学 専修大学社会知性開発研究センター  
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

ISBN : 978-4-9908234-2-9  
MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities (2014-2018)

# The Journal of Social Well-being Studies

No.2 (March 2016)

**I Articles**

The Significance and Availability of 'Happiness' Study Hiroo Harada ..... 7

Social capital and perceived happiness: Some evidence and issues Takashi Oshio ..... 19

Happiness of Economics Sayuri Shiraishi, Ken Shiraishi ..... 35  
-Current Condition and Challenges for the Future

Social Safety net(SSN) in Vietnam: Comparative analysis of two villages in the north and south in terms of community-based social safety net and The market economy wave Juichi Inada ..... 55

**II Annual Report**

1. Annual Report 2015 ..... 77

2. Symposium 2015 ..... 81

3. Camp Seminar ..... 93

4. Records of Research Seminar ..... 96

5. Research Activities in Japan ..... 98

6. Research Activities on abroad ..... 100

7. Academic Cooperation ..... 103

List of Researchers ..... 104

Editorial Policy ..... 106

Center for Social Well-being Studies  
Institute for the Development of Social Intelligence  
SENSHU UNIVERSITY



【別紙2】刊行物

<No.3, 2017年3月>

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成26年度~平成30年度)

# ソーシャル・ウェルビーイング研究論集

第3号 (2017年3月)

**I 論文**

信頼：社会学の基礎前提と  
ソーシャル・ウェルビーイング調査結果の検討 矢崎慶太郎 ..... 9

GDP、ウェルビーイング、幸福とシャドーエコノミー  
——日本についての考察—— フリードリッヒ・シュナイダー ..... 33  
翻訳：原田博夫

日本・韓国・ベトナムにおける幸福度の比較  
——ソーシャル・ウェルビーイング研究の現場から (I)—— 金井雅之 ..... 53

**II 活動記録**

1. 2016年度活動報告 ..... 71

2. シンポジウム ..... 75

3. コンファレンス ..... 87

4. 研究会開催 ..... 91

5. 研究活動 ..... 93

6. 研究成果一覧 ..... 95

7. 学術連携 ..... 111

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター員一覧 ..... 112

「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」規約 ..... 114

専修大学社会知性開発研究センター  
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

ISBN : 978-4-9908234-5-0

MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities  
(2014-2018)

# The Journal of Social Well-being Studies

No.3 (March 2017)

**I Articles**

Trust:Sociological Perspectives and the Results of  
Social Well-being survey Keitaro Yazaki ..... 9

GDP, Well-being, Happiness and the Shadow Economy:  
Some Results for Japan Friedrich Schneider ..... 33  
Translator: Hiroo Harada

Happiness in Japan, South Korea, and Vietnam:  
Findings of Social Well-being Studies (I) Masayuki Kanai ..... 53

**II Annual Report**

1. Annual Report 2016 ..... 71

2. Symposium 2016 ..... 75

3. Conference ..... 87

4. Records of Research Seminar ..... 91

5. Research Activities ..... 93

6. Research Achievements ..... 95

7. Academic Cooperation ..... 111

List of Researchers ..... 112

Editorial Policy ..... 114

Center for Social Well-being Studies  
Institute for the Development of Social Intelligence  
SENSHU UNIVERSITY

<No.4, 2018年3月>

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成26年度~平成30年度)

# ソーシャル・ウェルビーイング研究論集

第4号 (2018年3月)

**I 学術論文**

論文

いくつかの論点におけるソーシャル・ウェルビーイングの目標比較  
丸茂雄一 ..... 9

どのような言葉が人を幸せにするのか  
——自由回答のテキスト・マイニング分析を用いた混合研究法アプローチ——  
小林浩・カローラ・ホメリヒ ..... 31

調査報告

2017年モンゴル国調査報告  
——都市開発、社会福祉サービスの現状を中心に—— 中村知子 ..... 49

書評論文

書評：ジメル「カントの義務論と幸福論」  
——ソーシャル・ウェルビーイング調査への応用—— 矢崎慶太郎 ..... 65

翻訳

カントの義務論と幸福論 ゲオルク・ジメル ..... 73  
翻訳：矢崎慶太郎・中林純

研究の現場から

相対的比較と幸福度  
——アジア7ヶ国・地域の比較—— 金井雅之 ..... 81

**II 活動記録**

1. 2017年度活動報告 ..... 101

2. コンファレンス ..... 105

3. 研究会開催 ..... 131

4. 研究活動 ..... 135

5. 研究成果一覧 ..... 137

6. 学術連携 ..... 165

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター員一覧 ..... 166

「ソーシャル・ウェルビーイング研究論集」規約 ..... 168

専修大学社会知性開発研究センター  
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

ISBN : 978-4-9908234-7-4

MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities  
(2014-2018)

# The Journal of Social Well-being Studies

No.4 (March 2018)

**I Research Papers**

Articles

Comparison in Some Points of SWB between Japan and Republic of Korea  
Yuichi Marumo ..... 9

What Words Make People Happy?:  
A Mixed Methods Approach by Text Mining Analyses of Open-ended Data in Japan  
Jun Kobayashi and Carola Hommerich ..... 31

Survey Reports

A Report of the Research Trip to Mongolia in 2017.  
The Current State of City Development and the Social Welfare Services  
Tomoko Nakamura ..... 49

Reviews

Simmel's Sociology of Happiness and Moral:  
Application to the Social Well-Being Survey Keitaro Yazaki ..... 65

Translations

Kant's Teaching about Duty and Happiness Georg Simmel ..... 73  
Translators: Keitaro Yazaki and Ren Nakabayashi

Findings of Social Well-Being Studies

Relative Comparison and Happiness:  
A Comparison between Seven Asian Societies Masayuki Kanai ..... 81

**II Annual Reports**

1. Annual Report 2017 ..... 101

2. Conferences ..... 105

3. Records of Research Seminars ..... 131

4. Research Activities ..... 135

5. Research Achievements ..... 137

6. Academic Cooperations ..... 165

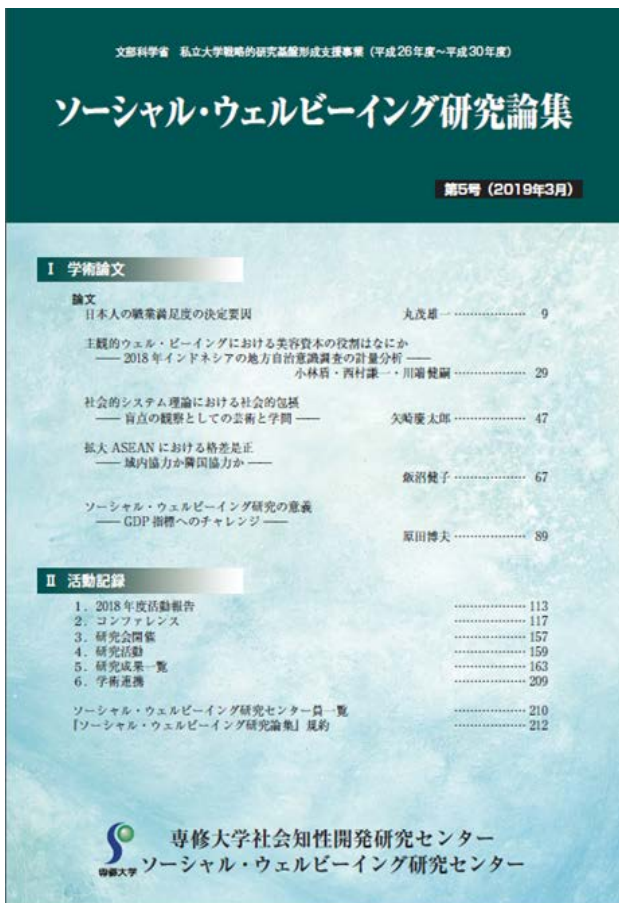
Project Members ..... 166

Submission Guidelines ..... 168

Center for Social Well-being Studies  
Institute for the Development of Social Intelligence  
SENSHU UNIVERSITY

【別紙2】刊行物

<No.5, 2019年3月>

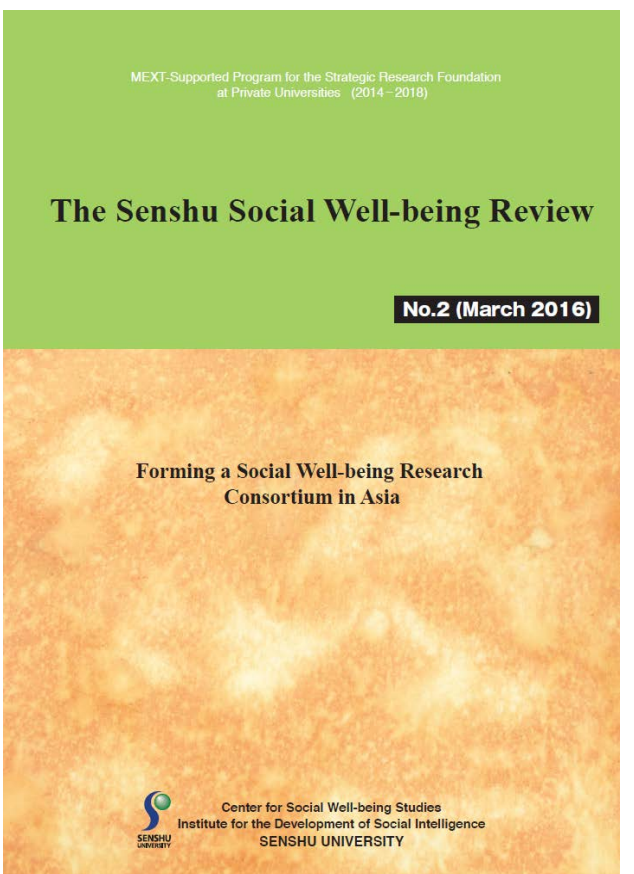


英語論集 *The Senshu Social Well-being Review*

<No.1, March 2015>

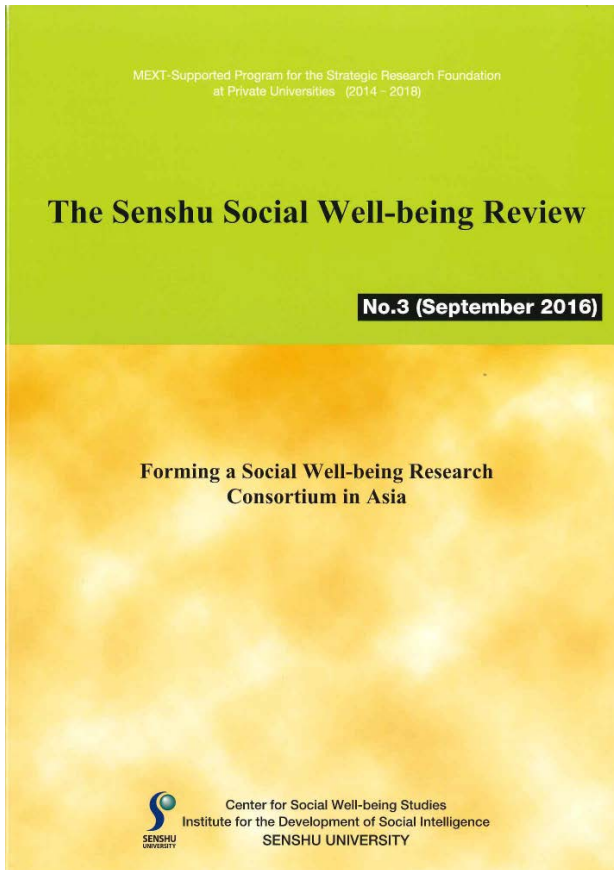


<No.2, March 2016>

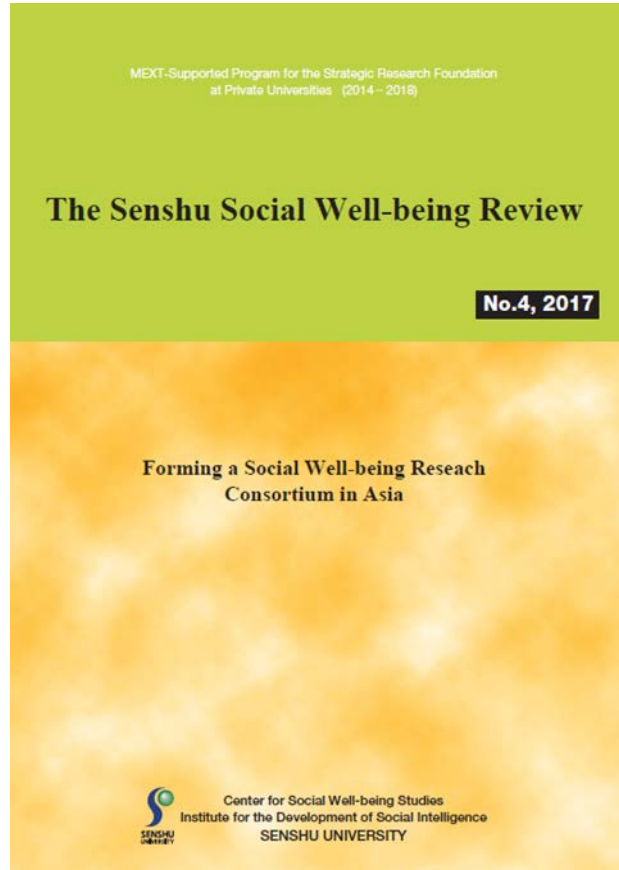


**【別紙 2】 刊行物**

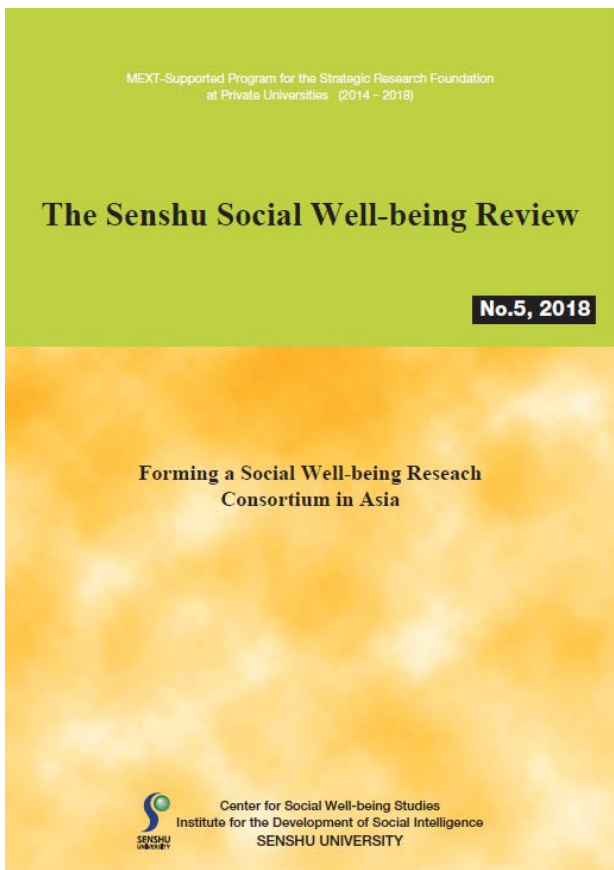
<No.3, September 2016>



<No.4, December 2017>



<No.5, December 2018>



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

『アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築』に係る研究成果評価票

大学名	選定年度	研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者
専修大学	平成26年度	専修大学社会知性開発研究センター ソーシャル・ウェルビーイング研究センター	原田 博夫
研究プロジェクト名		アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築	
評価項目		評価	
研究組織	各研究者の役割分担や責任体制の明確さ、参加する研究者の人数、PD及びRAの活用状況、研究支援体制	十分な量と質の研究者が参加しつつ効率的な運営がなされたと思われる。	
	共同研究機関等との連携状況	海外の研究機関との連携は、概ね円滑になされたと考えられる。	
進捗状況・研究成果等	優れた成果が上がった点	共通の質問項目を設定しつつ国毎の自由度も許容しているということで、多様な発展段階、文化のアジア諸国を跨ぐ優れた研究になっている。	
	課題となった点	知見を横断的にまとめる作業は殆ど終わったばかりである。また、「ソーシャル・ウェルビーイング」とは何のことでどのような意義を持つ概念か、について各国の調査結果を踏まえた考察も必要だと思われる。さらに欧米と比較した特徴についてもまとめることを期待したい。	
	自己評価の実施結果と対応状況	毎年度末に自己点検評価報告書が作成されている。	
	外部（第三者）評価の実施結果と対応状況	平成29年に第三者による中間評価がなされた。最終評価に関しては、私の指摘に応じて成果報告書に大幅な加筆が行われた。	
	研究期間終了後の展望	アジア諸国の関係機関との連携しつつ今後も研究が進むことが期待される。	
	研究成果の副次的効果	本プロジェクトの実施は、各国で若手研究者を育てる契機になったが、これは副次的効果というより、コンソーシアム構築から生まれた自然な帰結であろう。	
研究発表の状況	雑誌論文・図書	多くの論文が出されているが、国際比較を行ったものはまだ比較的少ない。	
	学会発表	本プロジェクトが主宰したシンポジウムも含め、多数の発表が積極的になされた。また、データを公開する姿勢を見せていることは高く評価したい。	
研究成果の公開状況	シンポジウム・学会実施状況	外部の研究者にも開かれた形で積極的に開催された。ただし、各国の参加者の報告は自国の状況の説明が中心で、全体のまとめがやや弱い印象がある。	
	インターネットの公開状況	十分な公開がなされている。しかし、求心力を高めるためには、例えば総合的観点からのリサーチ・クエスチョンの提示などさらに工夫の余地はあろう。	
総合所見* ( A ・ B ・ C )			
<p>発展段階や文化が異なる国々の研究者や研究機関を、多様性を容認しつつも共通の問題意識の下で結び付け、協力関係を構築したことは大きな成果と言えよう。今後は、各国の調査を整理・比較しつつ、アジアの共通性を抽出し、欧米との比較を踏まえつつ、その現代的意義を考察していくことが望まれる。</p>			

\* A(目標を大きく上回っている)、B(目標を達成している)、C(目標を下回っている or 達成していない)

平成31年 3月 12日

評価者氏名 大 守 隆



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

『アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築』に係る研究成果評価票

大学名	選定年度	研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者
専修大学	平成26年度	専修大学社会知性開発研究センター ソーシャル・ウェルビーイング研究センター	原田 博夫
研究プロジェクト名		アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築	
評価項目		評価	
研究組織	各研究者の役割分担や責任体制の明確さ、参加する研究者の人数、PD及びPIRAの活用状況、研究支援体制	研究代表者らのチームワークが良好で、責任体制と各研究者の役割分担が明確であり、参加する研究者の人数も適正である。PDも活用し若手研究者の養成もはかっており、大学からの支援も適正である。	
	共同研究機関等との連携状況	東アジアおよび東南アジア8か国、それぞれの地域で高い評価を受けている研究機関と調査・研究を実施し、現地での国際コンフェレンスも実施して、実効性の高い研究コンソーシアムを構築している。事務局の努力を高く評価したい。	
進捗状況・研究成果等	優れた成果が上がった点	「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」を日本を含む7か国で実施し、ソーシャル・キャピタル研究に基本的なオリジナルデータを着実に収集・蓄積した。	
	課題となった点	短期間に独自のアンケート調査を日本を答む7か国で実施済みであり、全体では海外における研究機関との国際コンソーシアムを構築した点は高く評価できる。ただし、個々の国々の固有の状況を反映した研究にまで分析を深化する点については課題を残した。	
	自己評価の実施結果と対応状況	適性と認められる。	
	外部（第三者）評価の実施結果と対応状況	研究進捗状況評価の段階では未実施であったインドネシア・台湾で調査を予定どおり実施し、かつ7か国全体の分析にまで着手している。また、研究終了後にも継続する方向でコンソーシアムの構築中であり外部評価の求めに適切に対応した。特に、プロジェクト終了後もソウル大学にて国際比較データの公開を実施する点も高く評価できる。	
	研究期間終了後の展望	本プロジェクトで構築した研究コンソーシアムを広く外部・グローバルに公開していくことを検討中である点を高く評価できる。	
	研究成果の副次的効果	国際的な研究者間のネットワークが形成され、より広範な研究についての意見交換がなされるようになったため、研究のスピルオーバー効果が期待できるようになった。	
状況の発表	雑誌論文・図書	独自のジャーナルを邦文と英文2種類発行し、かつ両者を差別化しており、一部で研究メンバー以外の投稿も受け入れており妥当である。	
	学会発表	本プロジェクトの邦文・英文2つのジャーナルで十分な成果発表を実施している。	
公開の状況	シンポジウム・学会実施状況	研究成果を議論するための十分な公開の場を提供している。	
	インターネットの公開状況	同上	
総合所見* ( A )			
アンケート調査を作成しそれを7か国において実施し、さらに、その過程で8か国の研究機関との国際コンソーシアムを構築した点、研究成果を発信するためのコンフェレンス、邦文英文2種類のジャーナルを発行している点、いずれも高く評価できる。			

\* A(目標を大きく上回っている)、B(目標を達成している)、C(目標を下回っている or 達成していない)

平成31年3月13日

評価者氏名 稲葉 陽二



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

『アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築』に係る研究成果評価票

大学名	選定年度	研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者
専修大学	平成26年度	専修大学社会知性開発研究センター ソーシャル・ウェルビーイング研究センター	原田 博夫
研究プロジェクト名		アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアムの構築	
評価項目		評価	
研究組織	各研究者の役割分担や責任体制の明確さ、参加する研究者の人数、PD及びRAの活用状況、研究支援体制	適切である。	
	共同研究機関等との連携状況	コンソーシアムを作り、有機的に、かつ積極的に連携していると判断できる。	
進捗状況・研究成果等	優れた成果が上がった点	(1) 共同研究機関とコンソーシアムを形成し、実質的な共同研究体制を確立した。(2) 7つの国・地域で比較可能な調査データを得た。(3) 英文論集 <i>The Senshu Social Well-being Review</i> を刊行した。	
	課題となった点	国際比較調査において、国・地域の間で調査票や調査方法の違いが生じてしまった。ただしこれは本プロジェクトに限らず、国際比較調査全般に当てはまることである。可能であれば、もっと事前準備に時間をかけるべきだったろう。	
	自己評価の実施結果と対応状況	社会知性開発研究センター運営委員会による自己評価が定期的に行われた。適正な自己評価が行われ、それに対して適切に対応したと判断できる。	
	外部（第三者）評価の実施結果と対応状況	平成29年2月にいわば中間評価のような外部評価が行われた。そこで指摘された事項（国際雑誌での論文発表）に対して、かなりの努力をして適切に対応したと判断できる。	
	研究期間終了後の展望	次の3点は高く評価できる。(1) 今後もコンソーシアムを維持し、持ち回りでコンファレンスとフィールドワークを継続する予定である。(2) 調査データを公開する予定である。(3) 英語論集を継続刊行する予定である。	
研究成果の副次的効果	コンソーシアムの継続・発展、若手研究者の育成が期待できる。また調査データの分析に基づいた政策発言をすることが望ましい。		
研究発表の状況	雑誌論文・図書	たいへん精力的に論文を発表し、図書を刊行している。また今後、Springer社から2巻の図書を刊行することを計画している点も高く評価できる。	
	学会発表	国内外の学会で多数の報告をしていて、高く評価できる。	
研究成果の公開状況	シンポジウム・学会実施状況	シンポジウム、コンファレンスを数多く行い、8つの国・地域にまたがる研究者間の連携が強まったと判断できる。また研究会を30回も行ったことも高く評価できる。	
	インターネットの公開状況	ソーシャル・ウェルビーイング研究センターのホームページで研究活動等を公開している。また英文論集と和文論集のパックナンバーが無料でダウンロードできる点はオープンサイエンスの観点から好ましい。	
総合所見* ( A ・ B ・ C )			
<p>国際的コンソーシアムを形成・維持しつつ、7つの国・地域で調査を行い、調査データの分析結果を積極的に国内外で発信している。これらのことはたいへん高く評価できる。今後は次の2点を考慮して活動を継続していただきたい。(1) 英語論文は増えたが、日本側メンバーと海外コンソーシアムメンバーとの共著論文がほとんどない。近年は国際共著論文数が大学評価基準の1つに使われているので、その数を増やすことが望ましい。(2) 調査対象となった7つの国・地域は変化が著しい。したがって、コンソーシアム参加機関が持ち回りでフィールドワークをすることも大切だが、5年後や10年後に基盤研究(S)や特別推進研究のような大型科研を獲得して、同時期にすべての国・地域で調査をすることも有意義だと考えられる。このような調査データが得られれば、いわば「定点観測」のような重要なデータになるだろう。</p>			

\* A(目標を大きく上回っている)、B(目標を達成している)、C(目標を下回っている or 達成していない)

平成31年3月11日

評価者氏名 佐藤嘉倫

